10-291

奈良時代文範

例言

一本書は奈良時代の國文國歌につきてその粹を選びあつめたるものなり。

一本文並に傍訓は、主として、古事記は古事記傳に據り、日本書紀は日本書紀通釋に據り、祝詞は祝詞略解に據り、宣命は歴朝詔詞解に據り、風土記は標註風土記に據り、氏文は氏文考證に據り、佛足石歌は南京遺響に據り、萬葉集は萬葉集古義に據りたり。

一本文中に（ ）を加へたるは脱文、〔 〕を加へたるは衍文を標したるなり。

明治 39 9 20 内交

一本文中の殊に難解なる語句、又は、必要なる語句、には略解を加へて初學者の便にしたり。その解釋は大概前記の諸書に據りたり。

奈良時代文範上巻

目次

古事記

◉建速須佐之男命、天上に昇り給ふ條……一

◉天安之河原の條……七

◉大國主神、御國を讓り奉る條……一〇

◉天孫、葦原中國に降臨し給ふ條……一四

◉天津日高日子穗穗手見命、綿津見神の宮に行き給ふ條……一九

◉日本武尊、熊襲を平げ給ふ條……二七

◉日本武尊の東征し給ふより薨去し給ふまでの條……二九

祝詞

●祈年祭詞……三九
●龍田風神祭詞……四六
●平野祭詞……五〇
●大殿祭詞……五二
●大祓詞……五六
●大嘗祭詞……六一
●遷祟神祭詞……六二
●出雲國造神賀詞……六五
●中臣壽詞……七〇

宣命

●文武天皇御即位の時の詔……七五
●和銅改元の詔……七七
●聖武天皇御即位の時の詔……七九
●聖武天皇立后の時の詔……八三
●陸奥國より黄金を獻りし時の詔……八六
●孝謙上皇法華寺におはしましける時の詔……九三
●孝謙上皇の、討賊將軍藤原藏下麻呂等に賜ひし詔……九五
●稱德天皇大嘗會の時に宣らせ給ひし詔……九八
●稱德天皇皇統の由來を述べて諸臣を勵まし給ひし詔……一〇三
●光仁天皇藤原永手を弔ひ給ひし詔……一〇九

風土記

●出雲風土記、國引の條……一一三

◉丹後風土記、奈具社の條……一一五
氏文
◉高橋氏文の一節……一一九

奈良時代文範上卷目次終

奈良時代文範

岡田正美
千秋季隆　編

古事記

◉建速須佐之男命、天上に昇り給ふ條

故各隨依賜之命。所知看之中。速須佐之男命。不知所命之國而。八拳須至于心前。啼伊佐知伎也。自伊下四字以音。下效此。其泣狀者。青山如枯山泣枯。河海者悉泣乾。是以惡神之音。如狹蠅皆滿。萬物之妖悉發。故伊邪那

◉よさすは委任し給ふ意。
◉八拳須は甚だ長き髯をいふ。
◉伊佐知は足擦して泣くこと。
◉枯山なすは枯山の如くなり。
◉狹蠅は五月頃の蠅をいふ。

根之堅州國は下つ底にある片隅の國をいふ即ち御母伊邪那美命のおはします夜見の國をいふなり。

神夜良比は追放の意。神とあるは神のしたまふことなればなり。

我那勢命は須佐之男命を指す。わが親愛なる弟君の意。

我國とは高天原なり。

美豆羅は男髮にして髮を左右にわけて兩耳の邊にて結びたるもの。

御鬘は上つ代に

岐大御神。詔速須佐之男命。何由以汝。不治所事依之國而。哭伊佐知流。爾答白。僕者欲罷妣國根之堅洲國故哭。爾伊邪那岐大御神大忿怒。詔然者汝不可住此國。乃神夜良比爾夜良比賜也。自夜以下七字以音。故其伊邪那岐大神者。坐淡海之多賀也。故於是速須佐之男命言。然者請天照大御神將罷。乃參上天時。山川悉動。國土皆震。爾天照大御神聞驚而。詔我那勢命之上來由者。必不善心。欲奪我國耳。即解御髮。纒御美豆羅而。乃於左右御美豆羅。亦於御鬘。亦於左右御手。各纒持八尺勾璁之五百津之美須麻流之

男女の髮の飾りとしたりし蔓草をいふなり。

八尺勾璁之五百津之美須麻流之珠は糸に貫きたるいやさやかなる數多の曲玉をいふ。

曾比良は背をいふ。

比良は篤胤の說に腹をいふ。記傳にはこの語を衍文として省けり。

千入之靫は千筋の矢も入るゝことをうべき靫なり。

伊都之竹鞆は稜威ある高鞆の義。鞆とは弓を射る時に左の手にまく鹿の皮にて製したるもの。この鞆に弓弦の當りて其響高きが故に高鞆といふ。

向股は兩股なり。

男建は健く荒ぶるをいふ。

珠而。曾毘良邇者負千入之靫。訓入云能理。下效此。自曾至邇以音。比良邇者。附五百入之靫。亦所取佩伊都此二字以音之竹鞆而。弓腹振立而。堅庭者。於向股蹈那豆美。如沫雪蹶散而。伊都二字以音之男建訓建云多祁夫。蹈建而。待問。何故上來。爾速須佐之男命答白。僕者無邪心。唯大御神之命以。問賜僕之哭伊佐知流之事。故白都良久。僕欲往妣國。以哭。爾大御神。詔汝者不可在此國而。神夜良比夜良比賜。故以為請將罷往之狀。參上耳。無異心。爾天照大御神。詔然者汝心之清明。何以知。於是速須佐之男命。答白各宇氣比而。生子。自宇以下三字以音下效此。故爾各中

宇氣比は誓ひをいふ。
うまなはうまむの意。
十拳劒は長き劒をいふ。
乞度は乞ひ取る意。
奴那登母母由良は玉のうごきて鳴る音をいふ。

置天安河而。宇氣布時。天照大御神。先乞度建速須佐之男命所佩十拳劒。打折三段而。奴那登母母由良爾。此八字以音下傚此。振滌天之眞名井而。佐賀美爾迦美而。自佐下六字以音下傚此。於吹棄氣吹之狹霧所成神御名。多紀理毘賣命。此神名以音。亦御名謂奧津嶋比賣命。次市寸嶋比賣命。亦御名謂狹依毘賣命。次多岐都比賣命。三柱此神名以音。速須佐之男命。乞度天照大御神所纏左御美豆良八尺勾璁之五百津之美須麻流珠而。奴那登母母由良爾。振滌天之眞名井而。佐賀美邇迦美而。於吹棄氣吹之狹霧所成神御名。正勝吾勝勝速日

物實は物種なり。

天之忍穗耳命。亦乞度所纏右御美豆良之珠而。佐賀美邇迦美而。於吹棄氣吹之狹霧所成神御名。天之菩卑能命。自菩下三字以音。亦乞度所纏御鬘之珠而。佐賀美邇迦美而。於吹棄氣吹之狹霧所成神御名。天津日子根命。又乞度所纏左御手之珠而。佐賀美邇迦美而。於吹棄氣吹之狹霧所成神御名。活津日子根命。亦乞度所纏右御手之珠而。佐賀美邇迦美而。於吹棄氣吹之狹霧所成神御名。熊野久須毘命。并五柱自久下三字以音。於是。天照大御神。告速須佐之男命。是後所生五柱男子者。物實因我物所成。故自吾子也。先所生

阿は畔にて田界なり。

大嘗きこしめす殿は大神が新稲をきこしめす殿なり。

屎麻理は大便をなすことなり。

地矣阿多良斯とは田地になるべき地を畔や溝になし置くは惜しむべきことなりとてなり。

之三柱女子者。物實因汝物所成。故乃汝子也。如此詔別也。(中略)爾速須佐之男命白于天照大御神。我心清明故。我所生之子得手弱女。因此言者。自我勝云而。於勝佐備。此二字以音。離天照大御神之營田之阿。此阿字以音。埋其溝。亦其於聞看大嘗之殿。屎麻理此二字以音。散。故雖然爲。天照大御神者。登賀米受而告。如屎醉而吐散登許曾。此三字以音。我那勢之命爲如此。又離田之阿。埋溝者。地矣阿多良斯登許曾。自阿以下七字以音。我那勢之命爲如此登。此一字以音。詔雖直。猶其惡態不止而。轉。天照大御神。坐忌服屋而。令織神御衣之時。穿其服屋之頂。

● 天斑駒は斑馬なり。

● 梭は機の糸を巻きたる竿を入るものにて經糸の中をくゞらしむる爲めに用ゐるものなり。

● 常世長鳴鳥は常夜の長鳴鳥なり。この常闇の夜にわたりて鳴かしめたる鳥をいふ。後より命ぜし名をこゝにあげたるなり。

逆剝天斑馬剝而。所墮入時。天衣織女見驚而。於梭衝陰上而死。訓陰上云富登。故於是天照大御神見畏。閇天石屋戸而。刺許母理此三字以音。坐也。爾高天原皆暗。葦原中國悉闇。因此而。常夜往。於是萬神之聲者。狹蠅那須此二字以音。皆滿。萬妖悉發。

◉天安之河原の條

是以。八百萬神於天安之河原神集集而。訓集云都度比。高御產巢日神之子思金神令思訓金云加尼。而。集常世長鳴鳥令鳴而。取天安河上之天堅石。取天金山之鐵而。求

● 鍛人は金打の約音なり後の加遅なり。
● 内拔は全拔なり。
● 天波波迦は朱櫻なり。
● 麻迦那波云々は揣り度りてまつをいふ。
● 白丹寸手は白和幣なり。白き和き絹をいふ。
● 御幣は幣帛にして神に上るものなり。その意は令充座にて藏一杯に充滿しむるをいふ。

鍛人天津麻羅而。(麻羅二字以音。)科伊斯許理度賣命(自伊下六字以音。)令作鏡。科玉祖命令作八尺勾璁之五百津之御須麻流之珠而。召天兒屋根命布刀玉命(布刀二字以音下效此。)而。内拔天香山之眞男鹿之肩拔而。取天香山之天波波迦(此三字以音木名)而。令占合麻迦那波而。(自麻下四字以音。)天香山之五百津眞賢木矣根許士爾許士而。(自許下五字以音。)於上枝取著八尺勾璁之五百津之御須麻流之玉。於中枝取繫八尺鏡。(訓八尺云八阿多。)於下枝取垂白丹寸手青丹寸手而。(訓垂云志殿。)此種種物者。布刀玉命布刀御幣登取持而。天兒屋命。布刀詔戸言禱白而。天手力男神。

● 日影は蘿の葛、眞拆は眞拆の葛なり。
● うけふせては槽を伏せてなり。
● 神懸は所謂託宣なれど、こゝは神の着きて物心おぼえずほとほと常態を失ふをいふ。天宇受賣命のさまをいへるなり。
● あそびは音樂の遊をいふ。古文にては毎に然り。

隱立戸掖而。天宇受賣命手次繫天香山之天之日影而。爲鬘天之眞拆而。手草結天香山之小竹葉而。(訓小竹云佐佐。)於天之石屋戸伏汙氣(此二字以音。)而。蹈登杼呂許志。(此五字以音。)爲神懸而。掛出胷乳。裳緒忍垂於番登也。爾高天原動而。八百萬神共咲。於是。天照大御神以爲怪。細開天石屋戸而。内告者。因吾隱坐而。以爲天原自闇。亦葦原中國皆闇矣。何由以天宇受賣者爲樂。亦八百萬神諸咲。爾天宇受賣。白言益汝命而貴神坐故。歡喜咲樂。如此言之間。天兒屋命。布刀玉命。指出其鏡。示奉天照大御神之時。天照大御神逾思奇

◉尻久米繩は七五三繩なり。

◉千位置戶とは數多の置物の意。素尊の罪を贖償する爲めの料なり。

◉浪穗は浪の高く秀でたる處をいふ。

而。稍自戶出而臨坐之時。其所隱立之天手力男神。取其御手引出。即布刀玉命以尻久米(此二字以音。)繩控度其御後方白言。從此以內不得還入。故天照大御神出坐之時。高天原及葦原中國自得照明。於是八百萬神共議而。於速須佐之男命負千位置戶。亦切鬚。及手足爪令拔而。神夜良比夜良比岐。

◉大國主神御國を讓り奉る條

爾天鳥船神副建御雷神而遣。是以。此二神降到出雲國伊那佐之小濱而。(伊那佐三字以音。)拔十掬劍。逆刺立于浪

◉宇志波祁流は主としてその國土を我物と領するをいふとぞ。

◉天逆手は物を呪ふわざなるべし。こゝはその舟を青柴垣にせんとなり。逆手とは「記傳」にその拍状は逆に醜して拍を外にして拍つをいふか、はた左と右との上下を逆にやりちがへてうつなりといふかいづれこの二つの間のことなるべしとあり。

穗。趺坐其劍前。問其大國主神言。天照大御神。高木神之命以。問使之。汝之宇志波祁流。(此五字以音。)葦原中國者。我御子之所知國言依賜。故汝心奈何。爾荅白久。僕者不得白。我子八重言代主神。是可白。然爲鳥遊取魚而。往御大之前。未還來。故爾遣天鳥船神。徵來八重事代主神而。問賜之時。語其父大神言。恐之。此國者。立奉天神之御子。即蹈傾其船而。天逆手矣於青柴垣打成而隱也。(訓柴云布斯。)故爾問其大國主神。今汝子事代主神。如此白訖。亦有可白子乎。於是亦白之。亦我子有建御名方神。除此者無也。如此白之間。其

青柴垣は青葉の柴の垣なり。

千引石は重き岩の意。

立氷とは俗にいふツララなり。谷川の瀧つ瀬などにて側の岩にかゝりたる水の未だ下へ落ちざるうちに凍りて突植たる劍の如く見ゆるものをいふ。

若葦は脆きにたとふ。葦は竹よりいと弱きものなるが、若きはなほ更なればなり。

建御名方神。千引石擎手末而來。言誰來我國而。忍忍如此物言。然欲為力競。故我先欲取其御手。故令取其御手者。即取成立氷。亦取成劍。故爾懼而退居。爾欲取其建御名方神之手。乞歸而取者。如取若葦。搤批而投離者。即逃去。故追往而。迫到科野國之洲羽海。將殺時。建御名方神白。恐。莫殺我。除此地者。不行他處。亦不違我父大國主神之命。不違八重事代主神之言。此葦原中國者。隨天神御子之命獻。故更且還來。問其大國主神。汝子等事代主神。建御名方神二神者。隨天神御子之命勿違白訖。故汝心奈

如天津日繼所知之登陀流天之御巢は天皇のいます富足る御殿の意なり。

氷木はいま神社の屋根の上に打ち交ひたる木の見ゆるがそれなり。むかしは神社ならずとも高貴の人の御殿にはこの建築法を用ゐたりき。

八十坰手は多くの隈々を經ていと遠き處の意にて、黃泉國をいふ。

神。爾荅白之。僕子等二神隨白。僕之不違。此葦原中國者。隨命既獻也。唯僕住所者。如天神御子之天津日繼所知之登陀流（此三字以音下倣此）天之御巢而。於底津石根宮柱布斗斯理。（此四字以音）於高天原氷木多迦斯理（多迦斯理四字以音）而治賜者。僕者於百不足八十坰手隱而侍。亦僕子等百八十神者。即八重事代主神為神之御尾前而仕奉者。違神者非也。如此之白而。（乃）（隱）（也）（故）（隨）（白）（而）。於出雲國之多藝志之小濱。造天之御舍（多藝志三字以音）而水戶神之孫櫛八玉神為膳夫。獻天御饗之時。禱白而。櫛八玉神化鵜。入海底。咋出底之波邇。（此二字以音）

○八十毘良迦は數多の皿なり。

○燧臼燧杵は火を鑽り出さん料なり。

○尾翼鱸は小鱸なるべし。

○佐和佐和邇は多くの魚をえて引き寄する時に舟人どものいと騷しく叫ぶ聲をいふ。

○登遠遠登遠遠邇は撓むをいふ。

○眞魚咋は魚類の料理といふほどの意。

作天八十毘良迦（此三字以音）而。鎌海布之柄作燧臼。以海蓴之柄作燧杵而。鑽出火云。是我所燧火者。於高天原者。神產巢日御祖命之登陀流天之新巢之凝烟、（訓凝烟云州須）之八拳垂摩弖燒擧。（摩弖二字以音）地下者。於底津石根燒凝而。栲繩之千尋繩打延。爲釣海人之口大之尾翼鱸。（訓鱸云須受岐）佐和佐和邇。（此五字以音）控依騰而。打竹之登遠遠、登遠遠、邇。（此七字以音）獻天之眞魚咋也。故建御雷神返參上。復奏言向和平葦原中國之狀。

◎天孫葦原中國に降臨し給ふ條

爾天照大御神高木神之命以。詔太子正勝吾勝勝速日天忍穗耳命。今平訖葦原中國之白。故隨言依賜。降坐而知看。爾其太子正勝吾勝勝速日天忍穗耳命答白。僕者將降裝束之間。子生出。名天邇岐志國邇岐志（自邇至志以音）天津日高日子番能邇邇藝命。此子應降也。此御子者。御合高木神之女。萬幡豐秋津師比賣命。生子。天火明命。次日子番能邇邇藝命（二柱）也。是以隨白之。科詔日子番能邇邇藝命。此豐葦原水穗國者。汝將知國。言依賜。故隨命以可天降。爾日子番能邇邇藝命。將天降之時。居天之八衢而。上光高

與伊牟迦布神云々は天孫に反抗する神に相對して打ち勝つべきほどの神ぞとの意。

五伴緒とはこの神々のことにて五部の部族の長といふ意なり。

支加はこの神々を各々得意の處々に分ち加へてなり。

遠岐支はかの天石屋戸の段にて天照大御神を招きまつりしをいふ。

天原。下光葦原中國之神。於是有。故爾天照大御神。高木神之命以。詔天宇受賣神。汝者雖有手弱女人。與伊牟迦布神。自伊至布以音。面勝神。故專汝往將問者。吾御子爲天降之道。誰如此而居。故問賜之時。答白。僕者國神。名猨田毘古神也。所以出居者。聞天神御子天降坐故。仕奉御前而。參向之侍。爾天兒屋命。布刀玉命。天宇受賣命。伊斯許理度賣命。玉祖命。幷五伴緒矣支加而。天降也。於是副賜其遠岐斯此三字以音。八尺勾璁鏡。及草那藝劍。亦常世思金神。手力男神。天石門別神而。詔者。此之鏡者。專爲我御魂而。如拜吾前。伊

常世思金神とはかの天照大御神石戸に隠れ給ひて常夜となりし時、功を立てし思兼神、といふ義なり。

佐久久斯侶は手に纏く多くの鈴の一貫をいふ。こゝにては五十鈴の枕詞なり。

伊都能知和岐知和岐弖は稜威の道別に道別きて、なり。

宇岐士摩理蘇理多多斯弖は天の浮橋の側なる浮島の方へまばし道を曲げて立ちより給ひたるならむといへり。

都岐奉。次思金神者。取持前事爲政。此二柱神者。拜祭佐久久斯侶伊須受能宮。自佐至能以音。次登由宇氣神。此者坐外宮之度相神者也。次天石戸別神。亦名謂櫛石窓神。亦名謂豐石窓神。此神者御門之神也。次手力男神者。坐佐那縣也。故其天兒屋命者。中臣連等之祖。布刀玉命者。忌部首等之祖。天宇受賣命者。猨女君等之祖。伊斯許理度賣命者。鏡作連等之祖。玉祖命者。玉祖連等之祖。故爾詔天津日子番能邇邇藝命而。離天之石位。押分天之八重多那此二字以音。雲而。伊都能知和岐知和岐弖。自伊以下十字以音。於天浮橋。宇岐士摩理。蘇理多多斯弖。自宇以下十一字亦以音。天降坐于竺紫日

久士布流多氣は靈異なる嶽なり。

頭椎之大刀は劍の首槌の如くなる劍をいふ。

天之波士弓は櫨にて作れる弓。

天之眞鹿兒矢は鹿を射る矢。

そじしの韓國とは膂肉(背の肉)の如くいと少なき空虛(不毛)の國の意。

眞木通は覓め過りてなり。

向之高千穗之久士布流多氣。自久以下六字以音。故爾天忍日命。天津久米命二人。取負天之石靫。取佩頭椎之大刀。取持天之波士弓。手挾天之眞鹿兒矢。立御前而仕奉。故其天忍日命。此者大伴連等之祖。天津久米命。此者久米直等之祖也。於是詔之此地者。向韓國眞木通笠沙之御前而。朝日之直刺國。夕日之日照國也。故此地甚吉地詔而。於底津石根宮柱布斗斯理。於高天原氷椽多迦斯理而坐也。

◉天津日高日子穗穗手見命、綿津見神の宮に行き給ふ條

海佐知毘古は海幸取彥の意。

山佐知母、已之佐知佐知云云は山幸も海幸もおのれ〱の幸々といふこゝろなり。

故火照命者。爲海佐知毘古此四字以音下效此。而。取鰭廣物鰭狹物。火遠理命者。爲山佐知毘古而。取毛麤物毛柔物。爾火遠理命。謂其兄火照命。各相易佐知欲用。三度雖乞不許。然遂纔得相易。爾火遠理命。以海佐知釣魚。都不得一魚。亦其鉤失海。於是其兄火照命乞其鉤曰。山佐知母。己之佐知佐知。海佐知母。己之佐知佐知。今各謂返佐知之時。佐知二字以音。其弟火遠理命答曰。汝鉤者。釣魚不得一魚。遂失海。然其兄強乞徵。故其弟。破御佩之十拳劍。作五百鉤。雖償不取。亦作一

虛空津日高とは穗々手見命のことなり。

无間勝間之小船は竹と竹との間の細くして目のなきほどに編みたる籠を船樣にしたるもの。

湯津香木は枝繁き桂をいふ。

千鉤。雖償不受云。猶欲得其正本鉤。於是。其弟泣患居海邊之時。鹽椎神來問曰。何虛空津日高之泣患所由。荅言。我與兄易鉤。而失其鉤。是乞其鉤故。雖償多鉤。不受云。猶欲得其本鉤。故泣患之。爾鹽椎神云。我爲汝命。作善議。即造无間勝間之小船。載其船。以敎曰。我押流其船者。差暫往。將有味御路。乃乘其道往者。如魚鱗所造之宮室。其綿津見神之宮者也。到其神御門者。傍之井上。有湯津香木。故坐其木上者。其海神之女。見相議者也。訓香木云加都良。故隨敎。小行。備如其言。即登其香木以坐。爾海神之女豐玉毘賣之從婢。持玉器。將酌水之時。於井有光。仰見者。有麗壯夫。訓壯夫云遠登古。下效此。以爲甚異奇。爾火遠理命。見其婢乞欲得水。婢乃酌水。入玉器貢進。爾不飲水。解御頸之璵。含口。唾入其玉器。於是其璵著器。婢不得離璵。故璵任著。以進豐玉毘賣命。爾見其璵。問婢曰。若人有門外哉。荅曰。有人坐我井上香木之上。甚麗壯夫也。益我王而甚貴。故其人乞水故。奉水者。不飲水。唾入此璵。是不得離。故任入將來而獻。爾豐玉毘賣命思奇。出見乃見感。目合而。白其父曰。吾門有麗人。爾海神自出見云。此人者。天津日高之御子。虛空津日高矣。即

從婢は前子等等の意。「ヘ」は省かれ「コラ」は約りて「カ」となれるなり。

天津日高は邇邇藝命のことなり。

虛津日高は主に皇太子にいふ。すなはち天と地との間なる空の眞秀に高くあるほどの意あり。

美智は海驢にて今の「あしか」のこと。

百取机代とは數多机の上に取り載せたる禮物なり。

罰は乞徵の意

鯽魚は歎辭。

鯁は刺なり。

於内率入而。美智皮之疊敷八重。亦絁疊八重。敷其上。坐其上而。具百取机代物。爲御饗。即令婚其女豐玉毘賣。故至三年。住其國。於是火遠理命。思其初事而。大一歎。故豐玉毘賣命。聞其歎以。白其父言。三年雖住。恒無歎。今夜爲大歎。若有何由。故其父大神。問其聟夫曰。今旦聞我女之語云。三年雖坐。恒無歎。今夜爲大歎。若有由哉。亦到此間之由奈何。爾語其大神。備如其兄罰失鉤之狀。是以海神。悉召集海之大小魚。問曰。若有取此鉤魚乎。故諸魚白之。頃者赤海鯽魚。於喉鯁。物不得食愁言。故。必是取。於是探赤海鯽魚之喉者。有鉤。即取出而。清洗。奉火遠理命之時。其綿津見大神誨曰之。以此鉤。給其兄時。言狀者。此鉤者。游煩鉤。須須鉤。貧鉤。宇流鉤云而。於後手賜。（於煩及須須、亦宇流六字以音。）然而其兄作高田者。汝命。營下田。其兄作下田者。汝命。營高田。爲然者。吾掌水故。三年之間。必其兄貧窮。若恨怨其爲然之事而。攻戰者。出鹽盈珠而。溺。若其愁請者。出鹽乾珠而活。如此令惚苦云。授鹽盈珠鹽乾珠幷兩箇。即悉召集和邇魚。問曰。今天津日高之御子。虛空津日高。爲將出幸上國。誰者幾日送奉而覆奉。故各隨己身之尋長。限日而白之中。

淤煩鉤は心晴れやかならしめざる鉤。

須々鉤は進み荒ぶる鉤。

貧鉤は貧しき鉤。

宇流鉤は失意の鉤。

後手云々は詛應なり。

佐比持とは物を截り斷つさまにて須加比の切ならんかといふ。

のむは請願の意。

一尋和邇白。僕者。一日送。即還來。故爾告其一尋和邇。然者汝送奉。若渡海中時。無令惶畏。即載其和邇之頸。送出。故如期。一日之內送奉也。其和邇將返之時。解所佩之紐小刀。著其頸而返。故其一尋和邇者於今謂佐比持神也。是以備如海神之敎言。與其鉤。故自爾以後。稍兪貧。更起荒心迫來。將攻之時。出鹽盈珠而令溺。其愁請者。出鹽乾珠而救。如此令惚苦之時。稽首白。僕者自今以後。爲汝命之晝夜守護人而仕奉。故至今。其溺時之種種之態。不絕仕奉也。於是海神之女。豐玉毘賣命。自參出白之。妾已妊身。今

日子は妹背の中にて女よりをとこをたたへていふ語。

臨產時。此念天神之御子不可生海原。故參出到也。爾即於其海邊波限。以鵜羽爲葺草。造產殿。於是其產殿未葺合。不忍御腹之急。故入坐產殿。爾將方產之時。白其日子言。凡佗國人者。臨產時。以本國之形產生。故妾今以本身爲產。願勿見妾。於是思奇其言。竊伺其方產者。化八尋和邇而。匍匐委蛇。即見驚畏而遁退。爾豐玉毘賣命。知其伺見之事。以爲心恥。乃生置其御子而白。妾恒通海道。欲往來。然伺見吾形。是甚怍之。即塞海坂而返入。是以名其所產之御子。謂天津日高日子波限建鵜葺草葺不合命。訓波限云那藝佐訓

●斯麻は島にて海神の宮をいふ。
●韋泥斯は妹を率ゐて寢れし也。
●余能許登碁登は世の限りなり。

（葺草云加夜。）然後者。雖恨其伺情。不忍戀心。因治養其御子之緣。附其弟玉依毘賣而。獻歌之。其歌曰。阿加陀麻波。袁佐閇比迦禮杼。斯良多麻能。岐美何余曾比斯。多布斗久阿理祁理。爾其比古遲。（三字以音。）荅歌曰。意岐都登理。加毛度久斯麻邇。和賀韋泥斯。伊毛波和須禮士。余能許登碁登邇。故日子穗穗手見命者。坐高千穗宮。伍佰捌拾歲。御陵者即在其高千穗山之西也。

●日本武尊熊襲を平げ給ふ條

●泥疑は何卒參ゐり給へといふ意。
●其枝とは手をいふ。
●裹薦は薦に包みたるなり。即ちその引き放ちたる兩手をつゝみしなり。
●御髮結額とは十五六才の頃の結髮にして額の處に結ふものなり。

天皇詔小碓命。何汝兄於朝夕之大御食不參出來。專汝泥疑教覺。（泥疑二字以音。下傚此。）如此詔以後。至于五日。猶不參出。爾天皇問賜小碓命。何汝兄久不參出。若有未誨乎。荅白既爲泥疑也。又詔如何泥疑之。荅白。朝署入厠之時。持捕搤批而。引闕其枝。裹薦投棄。於是天皇。惶其御子之建荒之情而。詔之。西方有熊曾建二人。是不伏无禮人等。故取其人等而遣。當此之時。其御髮結額也。爾小碓命。給其姨倭比賣命之御衣御裳。以劒納于御懷而幸行。故到于熊曾建之家見者。於其家邊軍圍三重。作室以居。於是言動爲御室

服は着給ふことを美那斯の用言なり。

衣衿は衣の襟なり。

おれは汝の意にて最卑稱の代名詞。

樂。設備食物。故遊行其傍。待其樂日。爾臨其樂日。如童女之髮梳垂其結御髮。服其姨之御衣御裳。既成童女之姿。交立女人之中。入坐其室內。爾熊曾建兄弟二人。見感其孃子。坐於己中而。盛樂。故臨其酣時。自懷出劒。取熊曾之衣衿。以劒自其胸刺通之時。其弟建見畏逃出。乃追至其室之椅本。取其背。皮劒。自尻刺通。爾其熊曾建白言。莫動其刀。僕有白言。爾暫許押伏。於是白言。汝命者誰。爾詔。吾者坐纏向之日代宮。所知大八嶋國。大帶日子淤斯呂和氣天皇之御子。名倭男具那王者也。意禮熊曾建二人。不伏無禮聞看而。取殺意禮詔而遣。爾其熊曾建白。信然也。於西方。除吾二人。無建強人。然於大倭國。益吾二人而建男者坐祁理。是以吾獻御名。自今以後。應稱倭建御子。是事白訖。即如熟苽振折而殺也。故自其時。稱御名。謂倭建命。然而還上之時。山神。河神。及穴戶神。皆言向和而參上。

熟苽とは熟したる甜瓜なり。

穴戶とは長門と豐前との間の海峽をいふ

●日本武尊の東征し給ふより薨去し給ふまでの條

爾天皇亦頻詔倭建命。言向和平東方十二道之荒

比比羅木之八尋矛は杜谷樹の木の長桙をいふ

夫琉神及摩都樓波奴人等而。副吉備臣等之祖名御鉏友耳建日子而遣之時。給比比羅木之八尋矛。比比羅三字以音。故受命罷行之時。參入伊勢大御神宮。拜神朝廷。即白其姨倭比賣命者。天皇既所以思吾死乎。何擊遣西方之惡人等而。返參上來之間。未經幾時。不賜軍衆。今更平遣東方十二道之惡人等。因此思惟。猶所思看吾既死焉。患泣罷時。倭比賣命。賜草那藝劒。那藝二字以音。亦賜御嚢而。詔若有急事。解茲嚢口。故到尾張國。入坐尾張國造之祖。美夜受比賣之家。乃雖思將婚。亦思還上之時將婚。期定而幸于東國。悉言

向火とは彼方より燒けくるに對して此方よりも火をつけて燒くをいふ。

たゆたふとは船の動れて漂ひすゝまざる意。

向和平山河荒神及不伏人等。故爾到相武國之時。其國造詐白。於此野中。有大沼。住是沼中之神。甚道速振神也。於是看行其神。入坐其野。爾其國造。火著其野。故知見欺而。解開其姨倭比賣命之所給嚢口而見者。火打有其裏。於是先以其御刀。苅撥草。以其火打而。打出火。著向火而燒退。還出。皆切滅其國造等。即著火燒。故(其)(地)(者)於今謂燒遣也。自其入幸。渡走水海之時。其渡神興浪。廻船。不得進渡。爾其后名弟橘比賣命白之。妾易御子而入海中。御子者。所遣之政遂應覆奏。將入海時。以菅疊八重。皮疊八重。絁

○佐泥佐斯は相模の枕詞。
○本那迦とは火の中なり。
○計比斯はいと瞭しく問ひたづれし意。
○阿豆麻波夜は吾妻はやにて、弟橘媛を追懐し給ふなり。

疊八重。敷于波上而。下坐其上。於是其暴浪自伏。御船得進。爾其后歌曰。佐泥佐斯。佐賀牟能袁怒邇。毛由流肥能。本那迦邇多知弖。斗比斯岐美波母。故七日之後。其后御櫛依于海邊。乃取其櫛。作御陵而。治置也。自其入幸。悉言向荒夫琉蝦夷等。亦平和山河荒神等而。還上幸時。到足柄之坂本。於食御粮處。其坂神。化白鹿而來立。爾即以其咋遺之蒜片端。待打者。中其目。乃打殺也。故登立其坂。三歎詔云。阿豆麻波夜。自阿下五字以音也。故號其國謂阿豆麻也。即自其國。越出甲斐。坐酒折宮之時。歌曰。邇比婆理。都久波袁須疑弖。伊久用加泥都流。爾其御火燒之老人。續御歌以歌曰。迦賀那倍弖。用邇波許許能用。比邇波登袁加袁。是以譽其老人。即給東國造也。自其國越科野國。乃言向科野之坂神而。還來尾張國。入坐先日所期美夜受比賣之許。於是獻大御食之時。其美夜受比賣。捧大御酒盞以獻。爾美夜受比賣。其於意須比之襴意須比三字以音著月經。故見其月經。御歌曰。比佐迦多能。阿米能迦具夜麻。斗迦麻邇。佐和多流久毘。比波煩曾。多和夜賀比那遠。麻迦牟登波。阿禮波須禮杼。佐泥牟登波。阿禮波意母閇杼。那賀祁勢流。意須比能

○邇比波理都久波は共に常陸の地名なり。
○迦賀那倍弖は日々並べてなり。
○意須比は後世のかづきの如きものにて、頭の上より襴まである衣をいふ。
○斗迦麻邇。佐和多流久毘は許知能夜麻能迦比邇佐和多流、久具比賀久毘なるべしといふ。こは彼此の山の峽に眞渡る鵠の頸の如くといふ意にて比波煩曾

（弱細）の序詞なり。

多和夜賀比那は手弱腕なり。

祁勢流は着給ふなり。

登斯賀岐布禮婆は年が來經ればなり。

多多那牟余は多知那牟の意。

氷雨は雹なり。

須蘇爾。都紀多知邇祁理。爾美夜受比賣。答御歌曰。多迦比迦流。比能美古。夜須美斯志。和賀意富岐美。阿良多麻能。登斯賀岐布禮婆。阿良多麻能。都紀波岐閇由久。宇倍那宇倍那。岐美麻知賀多邇。和賀祁勢流。意須比能須蘇爾。都紀多多那牟余。故爾御合而。以其御刀之草那藝劍。置其美夜受比賣之許而。取伊服岐能山之神幸行。於是詔。茲山神者。徒手直取而。騰其山之時。白猪逢于山邊。其大如牛。爾爲言擧而詔。是化白猪者。其神之使者。雖今不殺。還時將殺而。騰坐。於是零大氷雨。打惑倭建命。此化白猪者。非其神之使者。當其神之正身。因言界見惑也。

正身は身實の意。

當藝斯は能なり。舟の方向を正すもの。皇子の御足のこの形に似たりといふはいたく腫れたるをいふならん。

阿勢袁は吾兄よなり。親愛していひ給ひし詞なり。

故還下坐之。到玉倉部之清泉。以息坐之時。御心稍寤。故號其清泉。謂居寤清泉也。自其處發。到當藝野上之時。詔者。吾心恒念自虛翔行。然今吾足不得歩。成當藝斯形。自當下三字以音。故號其地。謂當藝也。自其地差少幸行。因甚疲。衝御杖稍歩。故號其地。謂杖衝坂也。到坐尾津前一松之許。先御食之時。所忘其地御刀。不失猶有。爾御歌曰。袁波理邇。多陀邇牟迦幣流。遠都能佐岐那流。比登都麻都。阿勢袁。比登都麻都。比登都阿理勢婆。多知波氣麻斯袁。岐奴岐勢麻斯袁。比登都麻都。阿勢袁。自其地幸。到三重

久爾能麻本呂とは四方に山などにて打圍まれたる國の意。

多々那豆久はたゝなはりつくにて重疊せるをいふ。

麻多部牟は全からんなり。

多多美許母は疊薦にて平群にかゝる枕詞なり。

宇受は髻にて鈿なり冠にさすものなり。

曾能古は人の子よの意。かくいはるゝは御身の病あつしくて都にかへり給ふこ

村之時。亦詔之吾足。如三重勾而甚疲。故號其地謂三重。自其幸行而。到能煩野之時。思國以歌曰。夜麻登波。久爾能麻本呂婆。多多那豆久。阿袁加岐夜麻。碁母禮流。夜麻登志。宇流波斯。又歌曰。伊能知能。麻多祁牟比登波。多多美許母。幣具理能夜麻能。久麻加志賀波袁。宇受爾佐勢。曾能古。此歌者。思國歌也。又歌曰。波斯祁夜斯。和岐幣能迦多用。久毛韋多知久母。此者片歌也。此時御病甚急。爾御歌曰。袁登賣能。登許能辨爾。和賀淤岐斯。都流岐能多知。曾能多知波夜。歌竟即崩。爾貢上驛使。於是坐倭后等。及御

とかなはぬに多くの人々は都にて髻華さしなどして遊び居るらんいと羨しとの御心なるべし。

波斯祁夜斯は愛しきなり。

和岐幣能迦多用は我家の方よりなり。

那豆岐田云々のは其地なる田の稻莖に如くはた蔓の葛の如く這ひ廻りて歎くの意。

阿斯用由久は鳥は空をゆけどもわれらは徒歩にて追ふゆゑにいたく難澁したりと也。

宇美賀は海なり。陸に對してウミガといふなり。

子等諸下到而。作御陵。即匍匐廻其地之那豆岐田自那下三字以音。而。哭爲歌曰。那豆岐能。多能伊那賀良邇。伊那賀良爾。波比母登富呂布。登許呂豆良。於是化八尋白智鳥。翔天而。向濱飛行。智字以音。爾其后及御子等。於其小竹之苅杙。雖足跳破。忘其痛以哭追。此時歌曰。阿佐士怒波良。許斯那豆牟。蘇良波由賀受。阿斯用由久那。又入其海鹽而。那豆美此三字以音。行時歌曰。宇美賀由氣婆。許斯那豆牟。意富迦波良能。宇惠具佐。宇美賀波。伊佐用布。又飛居其礒之時歌曰。波麻都知登理。波麻用波由迦受。伊蘇豆多布。是四歌者。皆

歌其御葬也。故至今其歌者。歌天皇之大御葬也。故自其國飛翔行。留河內國之志幾。故於其地作御陵。鎮坐也。即號其御陵。謂白鳥御陵也。然亦自其地更翔天。以飛行。

祝詞

●新年祭詞

●新年祭とは歲災なく時候順當にして五穀豐饒ならんを祈る祭。
●集侍はそこにあつまりたるをいふ。
●宣は天皇の詔を中臣氏が神主らにいひきかすなり。
●唯とは返事なり。
●神漏伎は高皇産靈神、神漏美は神皇産靈神なり。
●命は詔命の意。
●稱辭竟奉は詞を盡して稱讚なする意、轉して、御祭なする意。
●御年初は稻の種蒔なすなり。
●宇豆能御幣は嚴しき幣帛なり

集侍神主祝部等諸聞食登宣。（神主祝部等共稱唯。餘宣准此。）
高天原爾神留坐。皇睦神漏伎命神漏彌命以。天社國社登稱辭竟奉。皇神等能前爾白久。今年二月爾御年初將賜登爲而。皇御孫命能宇豆能幣帛乎。朝日能豐逆登爾。稱辭竟奉久登宣。
御年皇神等能前爾白久。皇神等能依左志奉牟。奥津御年乎。手肱爾水沫畫垂。向股爾泥畫寄氐。取作牟

ふ。
御年皇神は大年神及びその御子若年神をさす。
依左志奉半は大年神たちより皇孫へ委任して稻を生熟せしめ給ふをいふ。
奥津御年は稻。
向股は兩股なり。
千穎とは數多の穗のこと。
甁閉高知は酒甕の上を高くしてなり。
汁は酒のこと。
妙とは栲麻の布をいふ。細きを和妙、麤を荒妙といふ。
大御巫とは巫女なり。神祇官にいまず八神に仕へまつる故に大の稱を用ふ。

奥津御年乎八束穗能伊加志穗爾。皇神等能依左志
奉者。初穗乎波。千穎八百穎爾奉置氐。甁閉高知甁腹
滿雙氐。汁爾母穎爾母稱辭竟奉牟。大野原爾生物者。甘
菜辛菜。青海原住物者。鰭能廣物。鰭能狹物。奥津藻
菜邊津藻菜爾至、氐爾。御服者。明妙照妙和妙荒妙爾
稱辭竟奉牟。御年皇神能前爾。白馬白猪白鷄。種種
色物乎備奉氐。皇御孫命能宇豆乃幣帛乎。稱辭竟
奉久登宣。
大御巫能辭竟奉。皇神等能前爾白久。神魂。高御魂。
生魂。足魂。玉留魂。大宮乃賣。大御膳都神。辭代主登。

神漏伎命云々登とはこの二柱神の御命令として仕へまつるとなり。
座摩乃御巫は御滿水の神に仕へまつる御巫なり。
阿須波は庭中の足場の神。
波比岐は人家の入口の庭を守る神。

御名者白而辭竟奉者。皇御孫命御世乎。手長御世
登。堅磐爾常磐爾齋比奉。茂御世爾幸閉奉故。皇吾
睦神漏伎命。神漏彌命登。皇御孫命能宇豆乃幣帛
乎。稱辭竟奉久登宣。
座摩乃御巫乃稱辭竟奉。皇神等能前爾白久。生井。
榮井。津長井。阿須波。婆比支登。御名者白氐辭竟奉
者。皇神能敷坐。下都磐根爾宮柱太知立。高天原爾
千木高知氐。皇御孫命乃瑞能御舍乎仕奉氐。天御
蔭日御蔭登隱坐氐。四方國乎安國登平久知食須我
故。皇御孫命能宇豆乃幣帛乎。稱辭竟奉久登宣。

● 湯津磐村は五百津磐群にて數多群りたる磐の如く堅固なるをいふ。

● 疎夫留物は朝廷に疎遠なる妖鬼をいふ。

● 生島足國などとは大八州の國々島々の神靈を總稱したるもの。

● 谷蟆能狹渡は蝦蟇の行渡る極みにて陸地悉皆の意。

御門能御巫能稱辭竟奉。皇神等能前爾白久。櫛磐間門命。豐磐間門命登。御名者白氏。辭竟奉者。四方能御門爾。湯都磐村能如塞坐氏。朝者御門開奉。夕者御門閉奉氏。疎夫留物能自下往者下乎守。自上往者上乎守。夜能守日能守爾守奉故。皇御孫命能宇豆乃幣帛乎。稱辭竟奉久登宣。

生嶋能御巫能辭竟奉。皇神等能前爾白久。生國足國登。御名者白氏辭竟奉者。皇神能敷坐嶋能八十嶋者。谷蟆能狹度極。鹽沫能留限。狹國者廣久。峻國者平久。嶋能八十嶋墮事無。皇神等能依左志奉故。皇御孫命能宇豆乃幣帛乎。稱辭竟奉久登宣。

● 履佐久彌氏は凸凹ある道を踏み行くをいふ。

辭別。伊勢爾坐。天照太御神能大前爾白久。皇神能見霽志坐四方國者。天能壁立極。國能退立限。青雲能靄極。白雲能墜坐向伏限。青海原者棹柁不干。舟艫能至留極。大海原爾舟滿都都氣氏。自陸往道者荷緒縛堅氏。磐根木根履佐久彌氏。馬爪至留限。長道無間久立都都氣氏。狹國者廣久。峻國者平久。遠國者。八十綱打挂氏引寄如事。皇太御神能寄奉波。荷前者。皇太御神能大前爾。如横山打積置氏。殘乎波平聞看。又皇御孫命御世乎。手長御世登。堅磐爾常

宇事物は鵜の水中の魚を取る時その頸を深く衝き入るゝ如くなるをいふ。

御縣云々は天皇の御料の田にいます神々をいふ。

山口云々は山麓にいます神々なり。

磐爾齋比奉。茂御世爾幸閉奉故。皇吾睦神漏伎神漏彌命登宇事物頸根衝拔氐。皇御孫命能宇豆乃幣帛乎。稱辭竟奉久登宣。

御縣爾坐。皇神等前爾白久。高市。葛木。十市。志貴。山邊。曾布登。御名者白氐。此六御縣爾生出。甘菜辛菜乎持參來氐。皇御孫命能長御膳能遠御膳登聞食故。皇御孫命能宇豆乃幣帛乎。稱辭竟奉久登宣。

山口坐。皇神等能前爾白久。飛鳥。石村。忍坂。長谷。畝火。耳無登御名者白氐。遠山近山爾生立留。大木小木乎。本末打切氐持參來氐。皇御孫命能瑞能御舍

水分云々は水配りの意にて祈雨などせらるゝ神なり。

加牟加比は食向にて御膳につき給ふをいふ。

赤丹穗は天皇の豐かなる御酒または御食を聞しめし御心充ち滿ちて大御顏の麗はしく赤みますをいふ。

仕奉氐。天御蔭日御蔭登隱坐氐。四方國乎。安國登平久知食須我故。皇御孫命能宇豆乃幣帛乎。稱辭竟奉久登宣。

水分坐。皇神等能前爾白久。吉野。宇陀。都祁。葛木登。御名者白氐。辭竟奉者。皇神等能寄志奉牟。奥都御年乎。八束穗能伊加志穗爾寄志奉者。皇神等爾初穗波穎爾母汁爾母。甕閉高知。甕腹滿雙氐。稱辭竟奉氐。遺乎波皇御孫命能。朝御食夕御食能加牟加比爾。長御食能遠御食登。赤丹穗爾聞食故。皇御孫命能宇豆乃幣帛乎。稱辭竟奉久乎。諸聞食登宣。

○持由麻波利は持ち齋み愼みて仕へまつることなり。

○歲眞尼久は歲營くにて幾年もなり。

辭別。忌部能弱肩爾太多須支取挂氐。持由麻波利仕奉禮留幣帛乎。神主祝部等受賜氐。事不過。捧持奉登宣。

◉龍田風神祭詞

龍田爾稱辭竟奉。皇神乃前爾白久。志貴嶋爾大八嶋國知志皇御孫命乃。遠御膳乃長御膳止。赤丹乃穗爾聞食須。五穀物乎始氐。天下乃公民乃作物乎。草乃片葉爾至万氐不成。一年二年爾不在。歲眞尼久傷故爾。百能物知人等乃卜事爾出牟。神乃御心者。

○我御心曾はかく五穀の出來ざるはおのれの心よりなすわざなりと示し給へとなり。

○宇氣比は祈なり。

此神止白止負賜支。此乎物知人等乃卜事乎以氐卜出留神乃御心母無止白止聞看氐。皇御孫命詔久。神等乎波。天社國社止。忘事無久遺事無久。稱辭竟奉止思志行波須。誰神曾。天下乃公民乃作作物乎不成。傷神等波。我御心曾止。悟奉禮止。宇氣比賜支。是以。皇御孫命大御夢爾悟奉久。天下乃公民乃作作物乎。惡風荒水爾相都都不成傷波。我御名者。天乃御柱乃命國乃御柱乃命止。御名者悟奉氐。吾前爾奉牟幣帛者。御服者。明妙照妙和妙荒妙。五色乃物。楯戈御馬爾御鞍具氐。品品乃幣帛備氐。吾宮者朝日

●麻笥は苧をうみて入るゝ器なり。

乃日向處。夕日乃日隱處乃。龍田能立野乃小野爾。吾宮波定奉氐。吾前乎稱辭竟奉者。天下乃公民乃作作物者。五穀乎始氐。草乃片葉爾至万氐。成幸閉奉牟止悟奉支。是以。皇神乃辭教悟奉處仁。宮柱定奉氐。此乃皇神能前爾稱辭竟奉爾。皇御孫命乃宇豆乃幣帛乎令、捧持氐。王臣等乎爲使氐。稱辭竟奉久皇神乃前爾白賜事乎。神主祝部等諸聞食止宣。

奉宇豆乃幣帛者。比古神爾御服明妙照妙和妙荒妙。五色物。楯戈御馬爾御鞍具氐。品品能幣帛獻。比賣神爾御服備。金能麻笥。金能繀。金能桛。明妙照妙

●繀は糸を卷きつくるものにて桁なる板の上に三本の柱を立てたるもの。

●桛は絓苧を掛くるもの。

和妙荒妙五色能物。御馬爾御鞍具氐。雜幣帛奉氐。御酒者瓱能閉高知。瓱腹滿雙氐。和稻荒稻爾。山爾住物者。毛乃和物毛乃荒物。大野原生物者。甘菜辛菜。青海原爾住物者。鰭能廣物鰭能狹物。奧都藻菜邊藻菜爾至萬氐爾。如横山打積置氐。奉、此宇豆乃幣帛乎。安幣帛能足幣帛止。皇神能御心爾平久聞食氐。天下能公民能作作物乎。惡風荒水爾不相賜。皇神乃成幸閉賜者。初穗者。瓱能閉高知。瓱腹滿雙氐。汁爾母頴爾母。八百稻千稻爾引居置氐。秋祭爾奉牟止王卿等。百官能人等。倭國六縣能刀禰。男女爾至万氐爾。

今年四月。七月者云。今年七月ニ。諸參集氐。皇神能前爾。宇事物頸根築拔氐。今日能朝日能豐逆登爾。稱辭竟奉流。皇御孫命乃宇豆乃幣帛乎。神主祝部等被賜氐。墮事無奉禮登宣命乎。諸聞食止宣。

●天皇我御命爾坐世。は天皇の詔のまに〳〵なり。

●今木とは大和奈良のほとりの地名なるべし。もと平野の神のいましゝ處なり。

◉平野祭詞

天皇我御命爾坐世。今木與利仕奉來流。皇大御神能廣前爾白給久。皇大御神乃乞志給乃任爾。此所能底津石根爾宮柱廣敷立。高天乃原爾千木高知氐。天能御蔭日能御蔭登定奉氐。神主爾神祇某官位姓名定氐。進流神財波。御弓。御太刀。御鏡。鈴。衣笠。御馬乎引竝氐。御衣波。明多閉照多閉和多閉荒多閉爾備奉利氐。四方國能進禮流。御調能荷前乎取竝氐。御酒波。甕戶高知甕腹滿竝氐。山野能物波甘菜辛菜。青海原乃物波。波多能廣物波多能狹物。奧都毛波邊津毛波爾至麻氐。雜物乎。如橫山置高成氐。獻流宇豆乃大幣帛乎。平久所聞氐。天皇我御世乎。堅磐爾常磐齋奉利。伊賀志御世爾幸閉奉氐。萬世爾御坐令在米給登。稱辭竟奉久登申。又申久。參氐仕奉流。親王等王等臣等。百官人等乎母。

夜守日守爾守給氐。天皇我朝廷爾。伊夜高爾伊夜廣爾。伊賀志夜具波江乃如久。立榮米之令仕奉給登。稱辭竟奉久止申。

大殿祭詞

高天原爾神留坐須。皇親神魯企神魯美之命以氐。皇御孫之命乎。天津高御座爾坐氐。天津璽乃鏡劒乎捧持賜天。言壽「古語云許止保企。言壽詞。如今壽觴之詞」宣志久。皇我宇都御子皇御孫之命。此乃天津高御座爾坐氐。天津日嗣乎。萬千秋乃長秋爾。大八洲豐葦原瑞穗之國乎。安

伊夜高留云々は王臣の身にかゝる詞なるべし。

伊賀志夜具波江乃如久は嚴しく木の彌榮ゆる如くなり。

國止平氣久所知食止「古語云志呂志女須」言寄奉賜比氐。以天津御量氐。事問之磐根木根立知草能可岐葉乎毛言止氐。天降利賜比志食國天下登。天津日嗣所知食須。皇御孫之命乃御殿乎。今奧山乃大峽小峽爾立留木乎。齋部能齋斧乎以伐採氐。本末乎波山神爾祭氐。中間乎持出來氐。齋鉏乎以氐齋柱立氐。皇御孫之命乃天之御翳日之御翳止。造奉仕禮流瑞之御殿。「古語云阿良可」汝屋船命爾。天津奇護言乎「古語云久須志伊波比許登」以氐。言壽鎭白久。此乃敷坐大宮地。底津磐根乃極美。下津綱根。「古語番繩之類謂之綱根」波府虫能禍無久。高天原波。青雲乃靄久

汝は御殿を屋船神と崇めてそを差したる語なり。

天津奇護言はこの神を鎭めて祝ぎまつる奇異なる護言をいふ。

下津綱根は古の殿作りは長き綱を上下縱橫に引

きかためしがこいはその柱の下の方を結びしことをいへるならん。

●波絢蟲は蛇百足の如きもの。

●天乃血垂は上代人家の屋の上の煙を出す處をいふ。そこより諸鳥が糞など咋へて落すことありて之に害せられしことありきといふ。それをいふなり。

●錯は木交にて柱梁等の行合ふ處をいふ。

●御床都比は御床の邊なり。

●佐夜岐は騒ぎなり。

●夜目能伊須須岐は夜中物におそはれ騒ぐことなどをいふ。

●伊豆割志伎事無久はあやまち滑ることなくなり。

極美。天乃血垂飛鳥乃禍無久。掘堅留多柱桁梁戸牖乃錯比「古語云伎加比。」動鳴事無久。引結留幣葛目能緩比。取葺計留草乃噪岐「古語云蘇蘇岐。」無久。御床都比能佐夜伎。夜女能伊須須伎。伊豆都志伎事無久。平氣久安久奉護留神御名乎白久。屋船久久遲命。「是木靈也。」屋船豐宇氣姫命登。「是稻靈也。俗謂宇賀能美多麻。今世産屋以辟木束稻置於戸邊。乃以米散屋中之類也。」御名乎波奉稱利氏皇御孫命乃御世乎。堅磐常磐爾奉護利。五十橿御世乃足良志御世爾。田永乃御世止奉福爾依氏。齋玉作等我持齋波利持淨麻波利造仕禮留。瑞八尺瓊能御吹伎乃五百都御統乃玉爾。明和幣。「古語云爾伎氏。」曜和幣乎附

●御統は數多の玉を抜き連れたるもの。

●伊須呂許比は伊は發語。須呂はすゞろ。許比は岐の延語。即ち心のすゞろぎて、なり。

●比禮は古、婦人の項より肩にかけて裝飾としたる布帛をいふ。

氣氏。齋部宿禰某我弱肩爾太襁取懸氏。言壽伎鎭奉事能漏落武事乎波。神直日命。大直日命。聞直志見直志氏。平良氣久安良氣久所知食登白。詞別白久。大宮賣命登御名乎申事波。皇御孫命乃同殿能裏爾塞坐氏。參入罷出人能選比所知志。神等能伊須呂許比阿禮比坐乎。言直志和志「古語云夜波志。」坐氏。皇御孫命朝乃御膳。夕能御膳供奉流。比禮懸伴緒襁懸伴緒乎。手蹟足蹟「古語云麻我比。」不令爲氏。親王諸王諸臣。百官人等乎。已乖乖不令在。邪意穢心無久宮進米爾進。宮勤爾勤之米氏。咎過在乎波。見直志聞直

大祓は伊邪那岐命黄泉國よりかへりまして筑紫の橘の小門にて大御身に着けたるものを棄てさせ給ひたるより始まれれど、毎年六月十二月の晦日に恒例として行はるゝやうになりしは文武天皇大寶元年よりなり。

坐氐。平良氣久安良氣久令仕奉坐爾依氐。大宮賣命止。
御名乎稱辭竟奉久登白。

◎大祓詞

集侍親王諸王諸臣。百官人等諸聞食止宣。
天皇朝廷爾仕奉留。比禮挂伴男。手襁挂伴男。靭負
伴男。劍佩伴男。伴男乃八十伴男乎始氐。官官爾仕
奉留人等乃。過犯家牟雜々罪乎。今年六月晦之大祓
爾。祓給比清給事乎。諸聞食止宣。
高天原爾神留坐。皇親神漏岐神漏美乃命以氐八

日高見之國とは山遠く地廣く日の高く見ゆる處。即ち大和をいふ。

百萬神等乎。神集集賜比。神議議賜比。我皇御孫之
命波。豐葦原乃水穗之國乎。安國止平久知所食止
事依志奉支。如此依志奉志國中爾。荒振神等乎波神
問志爾問志賜。神掃掃賜比氐。語問志磐根樹立。草之垣
葉乎毛語止氐。天之磐坐放。天之八重雲乎。伊頭乃千
別爾千別氐。天降依志奉支。如此久依左志奉志四方
之國中登。大倭日高見之國乎。安國止定奉氐。下津
磐根爾宮柱太敷立。高天原爾千木高知氐。皇御孫
之命乃美頭乃御舍仕奉氐。天之御蔭日之御蔭止
隱坐氐。安國止平氣久所知食武。國中爾成出武。天之

●天之益人は人間をいふ。人は漸次増加するものなれば也。

●串刺は田のうちに杭串などを刺して農夫を困らすをいふ。

●白人は白癜にて癩病の類。

●胡久美は瘜肉にて疣の類。

●高津神乃災は天狗或は雷などの災ならんといふ。

●高津鳥乃災は虚空を翔る鳥の糞または蛇などを咋へ來りて竈の上に落せるその毒にあたることをいふ。

●菅曾は菅を細くさきて緒にしたるもの。

益人等我。過犯氣牟雜雜罪事波。天津罪止。畔放。溝埋。樋放。頻蒔。串刺。生剝。逆剝。屎戶。許許太久能罪乎。天津罪止法別氣氏。國津罪止八。生膚斷。死膚斷。白人。胡久美。己母犯罪。己子犯罪。母與子犯罪。子與母犯罪。畜犯罪。昆虫乃災。高津神乃災。高津鳥災。畜仆志。蠱物爲罪。許許太久乃罪出武。如此出波。天津宮事以氏。大中臣。天津金木乎。本打切末打斷氏。千座置座爾置足波志氏。天津菅曾乎。本刈斷末刈切氏。八針爾取辟氏。天津祝詞乃太祝詞事乎宣禮。如此久乃良波。天津神波。天磐門乎押披氏。天之八重雲乎伊頭乃

●伊穗理は雲霧をいふ。

●科戶は級長戶邊神のことなり。

千別爾千別氏所聞食武。國津神波。高山之末。短山之末爾上座氏。高山之伊穗理。短山之伊穗理乎撥別氏所聞食武。如此所聞食氏波。皇御孫之命乃朝廷乎始氏。天下四方國爾波。罪止云布罪波不在止。科戶之風乃。天之八重雲乎吹放事之如久。朝之御霧夕之御霧乎。朝風夕風乃吹掃事之如久。大津邊爾居大船乎。神解放艫解放氏。大海原爾押放事之如久。彼方之繁木本乎。燒鎌乃敏鎌以氏打掃事之如久。遺罪波不在止。祓給比清給事乎。高山之末短山之末與里。佐久那太理爾。落多支都速川乃瀨坐須。瀨織

可可呑氐波の可々は呑む音なり。

今年六月晦日は十二月祓の時には十二月晦日とするなり。

津比咩止云神。大海原爾持出奈武。如此持出往波。荒
鹽之鹽乃八百道乃。八鹽道之。鹽乃八百會爾座須。
速開都比咩止云神。持可可呑氐牟。如此久可可呑氐波。
氣吹戸坐須氣吹戸主止云神。根國底之國爾氣吹
放氐牟。如此久氣吹放氐波。根國底之國爾坐。速佐須良
比咩登云神。持佐須良比失氐牟。如此久失氐波。天皇我
朝廷爾仕奉留。官官人等乎始氐。天下四方爾波。自今
日始氐。罪止云布罪波不在止。高天原爾耳振立聞
物止。馬牽立氐。今年六月晦日夕日之降乃大祓爾。
祓給比清給事乎。諸聞食止宣。

依志氐はよさし給ふによりての意。

四國卜部等。大川道爾持退出氐。祓却止宣。

◎大嘗祭詞

集侍。神主祝部等諸。聞食登宣。
高天原爾神留坐。皇睦神漏伎神漏彌命以。天社國
社登敷坐留。皇神等前爾白久。今年十一月中卯日
爾。天都御食乃長御食乃遠御食登。皇御孫命乃大
嘗聞食牟爲故爾。皇神等相宇豆乃比奉氐。堅磐爾
常磐爾齋比奉利。茂御世爾幸閉奉牟止依志氐。千秋五
百秋爾平久安久聞食氐。豐明爾明坐牟。皇御孫命

高市。高は例の尊稱。市は神々の集ふ場所をいふ。

能宇豆乃幣帛乎。明妙照妙和妙荒妙爾備奉氐。朝日豐榮登爾。稱辭竟奉久乎。諸聞食登宣。

事別。忌部能弱肩爾太襁取挂氐。持由麻波利仕奉禮留幣帛乎。神主祝部等請氐。事不落捧持氐奉登宣。

◉遷却崇神祭詞

高天之原爾神留坐氐。事始給志。神漏伎神漏美能命以氐。天之高市爾八百萬神等乎神集集給比。神議議給氐。我皇御孫之尊波。豐葦原能水穗之國乎。安國止平久氣久所知食止。天之磐座放氐。天之八重雲

乎伊頭之千別爾千別氐。天降所寄奉志時爾。誰神乎先遣波志弖。水穗國能荒振神等乎。神攘攘平氣武止神議議給時爾。諸神等皆量申久。天穗日之命乎遣而平氣武止申支。是以天降遣時爾。此神波返言不申氐。次遣志健三熊之命毛隨父事氐。返言不申。又遣志天若彥毛返言不申氐。高津鳥殃爾依氐。立處爾身亡支。是以。天津神能御言以氐更量給氐。經津主命健雷命。二柱神等乎天降給比氐。荒振神等乎神攘攘給比。神和和給氐。語問志磐根樹立。草之片葉毛語止氐。皇御孫之尊乎天降所寄奉支。如此久天降

所寄奉志。四方之國中止。大倭日高見之國乎。安國止定奉氐。下津磐根爾宮柱太敷立。高天之原爾千木高知氐。天之御蔭。日之御蔭止仕奉氐。安國止平氣久所知食武。皇御孫之尊乃。天御舍之內仁坐須皇神等波。荒備給比健備給比。崇給事無志氐。高天之原爾始志事乎。神奈我良毛所知食氐。神直日大直日爾直志給比氐。自此地波四方乎見霽。山川能清地爾遷出坐氐。吾地止宇須波伎坐世止。進幣帛者。明妙照妙和妙荒妙爾備奉氐。見明物止。鏡。翫物止玉。射放物止弓矢。打斷物止太刀。馳出物止御馬。御酒者。甕戸高知。甕腹滿雙氐。米爾毛穎爾毛。山爾住物者。毛乃和物毛能荒物。大野原爾生物者。甘菜辛菜。青海原爾住者者。鰭廣物鰭狹物。奧津海菜邊津海菜爾至萬氐爾。橫山之如久。几物爾置所足氐。奉留宇豆乃幣帛乎。皇神等乃御心毛明爾。安幣帛乃足幣帛止。平久聞食氐。崇給比健備給事無之氐。山川之廣久清地爾遷出坐氐。神奈我良鎭坐世止。稱辭竟奉止申。

◉出雲國造神賀詞

八十日日波在止毛。今日能生日能足日爾。出雲國國

◎明御神止は現人神としての意。現人神とは現なる人にてまします神の義なり。

◎日眞名子は御愛子の義。

◎加夫呂伎は神祖のこと。

◎伊豆能眞屋は齋屋なり。

◎黑益之は薪を燒きてその尻を黑くするをいふ。

造姓名。恐美恐美毛申賜久。挂麻久畏岐。明御神止大八島國所知食須。天皇命乃大御世乎。手長能大御世止齋止「若後齋時者。加後字」為氐。出雲國乃青垣山内爾。下津石根爾宮柱太敷立氐。高天原爾千木高知坐須。伊射那伎乃日眞名子。加夫呂伎熊野大神櫛御氣野命。國作坐志大穴持命。二柱神乎始天。百八十六社坐皇神等乎。某甲我弱肩爾太襷取挂天。伊都幣能緒結。天乃美賀祕冠利天。伊豆能眞屋爾麤草乎。伊豆能席登刈敷支氐。伊頭閉黑益之。天能瓱和爾齋許母利氐。志都宮爾。志靜氷仕奉氐。朝日能豐榮登爾。伊

◎瓱和爾齋許母利氐は御食の調進に忌み籠るをいふ。

◎志都宮は神を鎭め奉る宮なり。

◎火瓮は瓮のうちにて燃ゆる猛火をいふ。

波比乃返言能。神賀吉詞奏賜波久登奏。

高天能神王高御魂神魂命能。皇御孫命爾天下大八島國乎事避奉之時。出雲臣等我遠祖天穗比命乎。國體見爾遣時爾。天能八重雲乎押別氐。天翔國翔氐天下乎見廻氐。返事申給久。豐葦原乃水穗國波。晝波如五月蠅水沸支。夜波如火瓮光神在利。石根木立青水沫毛事問天。荒國在利。然毛鎭平天。皇御孫命爾。安國止平久所知坐之米牟止申氐。已命兒天夷鳥命爾。布都怒志命乎副天。天降遣天。荒布留神等乎撥平氣。國作之大神乎毛媚鎭天。大八島國現事顯

●神奈備は神の森なり。

●八百丹は數多の土の義にてそを杵にて築くといふこゝろより杵築の枕詞となれり。

事令事避支。乃大穴持命乃申給久。皇御孫命乃靜坐牟大倭國申天。已命和魂乎八咫鏡爾取託天。倭大物主櫛𤭖玉命登名乎稱天。大御和乃神奈備爾坐。己命乃御子阿遲須伎高孫根乃命乃御魂乎。葛木乃鴨乃神奈備爾坐。事代主命能御魂乎。宇奈提爾坐。賀夜奈流美命乃御魂乎。飛鳥乃神奈備爾坐天。皇孫命能近守神登貢置天。八百丹杵築宮爾靜坐支。是爾親神魯伎神魯美乃命宣久。汝天穗比命波。天皇命能手長大御世乎。堅磐爾常磐爾伊波比奉。伊賀志乃御世爾佐伎波閉奉登。仰賜志次乃隨爾。供齋「若後齋時者。加後字」。仕奉氐。朝日乃豐榮登爾。神乃禮自利臣能禮自登。御禱乃神寶獻良久止奏。白玉能大御白髮坐。赤玉能御阿加良毗坐。青玉能水江玉乃行相爾。明御神登大八島國所知食。天皇命能手長大御世乎。御橫刀廣爾誅堅米。白御馬能前足爪。後足爪踏立事波。大宮能內外御門柱乎。上津石根爾踏堅米。下津石根爾踏凝之。振立流事波耳能彌高爾。天下乎所知食左牟事志太米。白鵠乃生御調能玩物登。倭文能大御心毛多親爾。彼方能古川岸。此方能古川岸爾生立。若水沼間能彌若叡爾御若叡坐。

●禮自利は禮代なり初大國主神隱れます時天穗日命に托して皇孫の御世の無窮なれと祈りまつる表として上られしにならひてその子孫たる出雲の國造が大國主神の禮賀として熊野杵築兩宮に奉りし神資をいふ。

●臣能禮自は國の禮代なり。

●志太米は下見えにて下形のあらはれ見ゆるを云

●御白髮坐は御白髮の生ふるまで長命し給へとなり。

●御阿加良毗坐は御面赤くて健康にましますないふ。

●水江玉乃行相はうつくしき愛すべき玉の糸に貫かれてみたれぬが如く天が下をとゝのへ治め給ふをいふ。

●多志爾は確かにの意。倭文織の飾の鮮かにたしかに分れ通りたる如く天皇の御心の確かなるをいふ。
●若水沼間は若き栗林なり。
●須々岐振遠止美乃水乃は滌振淀みの水の如くなり。むかし阿遲須伎高彦根命の御身滌きし給ひしことによりていひたるものにて、かく身滌すれば川の水よどむゆゑにしかいへり。
●彌乎知爾は淀みたる水は川上に逆行する如く人間の齢も前にかへりて天皇の若返り給はんことにいふ。
●麻蘇比は眞澄なり。
●根子は尊稱。

須須伎振遠止美乃水乃彌乎知爾御袁知坐。麻蘇比乃大御鏡乃面乎。意志波留志天見行事能己登久。明御神能太八島國乎。天地月日等共爾。安久平久知行牟事能志太米止。御禱神寶乎擎持氐。神禮自利臣禮自登。恐彌恐彌毛。天津次能神賀吉詞白賜久登奏。

◉中臣壽詞

現御神止大八嶋國所知食須。大倭根子天皇我御前仁。天神乃壽詞遠稱辭定奉良久止申須。

●由庭は齋場の義。天皇の天神地祇を祭り給ふ大嘗宮をいふ。
●二上は天上にある山名なり。

高天原仁神留坐須皇親神漏伎神漏美乃命遠持天。八百萬乃神等遠集倍賜天。皇孫尊波。高天原仁事始天。豐葦原乃瑞穗乃國遠。安國止平介久所知食天。天都日嗣乃天都高御座仁御坐天。天津御膳乃長御膳乃遠御膳止。千秋乃五百秋仁。瑞穗遠平介久安介久由庭仁所知食止事依志奉氐。天降坐之後仁。中臣乃遠都祖天兒屋根命。皇御孫尊乃御前仁奉仕氐。天忍雲根神遠。天乃二上仁奉上氐。神漏岐神漏美命乃前仁受給波里申仁。皇御孫尊乃御膳都水波。宇都志國乃水爾。天都水遠加氐奉牟止申世止事敎

◎麻知|弱蒜|未だ詳ならず

◎太兆|は鹿の肩骨を燒きてその裂くる文によりて判ずるトなり。

◎悠紀|は天神|主基|は地祇を祭つる方なり。

◎酒造兒|以下相作まで|は造酒等に關係せるもの。

◎稻實公|は御飯の事に仕へ奉るものなり。

給志依氐。天忍雲根神。天乃浮雲仁乘氐。天乃二上仁上坐氐。神漏岐神漏美命乃前仁申世波。天乃玉櫛遠事依奉氐。此玉櫛遠刺立氐。自夕日至朝日照万氐。天都詔戸乃太詔刀言遠以氐告禮。如此告波。麻知波。弱蒜仁由都五百篁生出牟。自其下天乃八井出牟。此遠持天。天都水止所聞食止事依奉支。如此依奉志任任仁。所聞食由庭乃瑞穗遠。四國卜部等。太兆乃卜事遠持氐奉仕氐。悠紀仁近江國野州。主基仁丹波國氷上遠齋定氐。物部乃人等。酒造兒。酒波。粉走。灰燒。薪採。相作。稻實公等。大嘗會乃齋場仁持齊波利參來氐。今年十一月中都卯日仁。由志理伊都志理持恐美恐美母清麻波利仁奉仕利。月內仁日時遠撰定氐獻留。悠紀主基乃黑木白木乃大御酒遠。大倭根子天皇我。天都御膳乃長御膳乃遠御膳止。汁仁毛實仁毛赤丹乃穗仁毛所聞食氐。豐明仁明御坐氐。天都神乃壽詞遠稱辭定奉留。皇神等母。千秋五百秋乃相嘗仁。相宇豆乃比奉利。堅磐常磐仁齋奉利氐。伊賀志御世仁榮志米奉利。自康治元年始氐。與天地月日共。照志明良志御坐事仁。本末不傾。茂槍乃中執持氐奉仕留。中臣祭主。正四位上行神祇大副。大中

臣朝臣清親。壽詞遠稱辭定奉久止申。

又申久。天皇朝庭仁奉仕留。親王等王等諸臣百官人等。天下四方國乃百姓諸諸。集侍氐。見食倍尊食倍。歡食倍聞食倍。天皇朝庭仁茂世仁。八桑枝乃立榮奉仕留倍支禱乎。所聞食止。恐美恐美毛申給波久止申。

宣命

◉文武天皇御即位の時の詔

現御神止大八島國所知天皇大命良麻止詔大命乎。集侍皇子等王臣百官人等天下公民諸聞食止詔。高天原爾事始而。遠天皇祖御世。中今至麻氐爾。天皇御子之阿禮坐牟彌繼繼爾。大八島國將知次止。天都神乃御子隨母。天坐神之依之奉之隨(聞看來)此天津日嗣高御座之業止。現御神止大八島國所知倭根子天皇命授賜比負賜布。貴支高支廣支厚支

●良麻は添辭なり。その意詳ならず。
●中今は今の世のことにて當世を最も隆盛なる眞中の御世と稱ふる意。
●阿禮坐は生れますなり。
●次止は順席次第としての意。
●天津日嗣高御座之業とは天皇の御位をいふ。
●大八島國所知倭根子天皇は持統天皇を指す。

●食國は知ろしめす國の意。

●隨神は神にましますまゝになり。

●務結は堅く執持ちて弛べぬをいふ。

●治將賜は相等の處置をなさんの意。

大命乎。受賜利恐坐氐。此乃食國天下乎調賜比平賜比。天下乃公民乎惠賜比撫賜牟止奈母。隨神所思行佐久止詔。天皇大命乎。諸聞食止詔。是以百官人等。四方食國乎治奉止。任賜弊留國國宰等爾至麻氐天皇朝庭敷賜行賜弊留國法乎過犯事無久。明支淨支直支誠之心以而。御禰禰而綏怠事無久。務結而仕奉止詔大命乎諸聞食止詔。故(爾)如此之狀乎聞食悟而。欵將仕奉人者。其仕奉禮良牟狀隨。品品讃賜上賜治將賜物曾止詔天皇大命乎諸聞食止詔。

●天降坐はあまおりの約。

●天地之心は天神地祇の御心をいふ。

●和銅とは熟銅なり。

●于豆奈比は受納するをいふ。

◉和銅改元の詔

現神御宇倭根子天皇詔旨勅命乎。親王諸王諸臣百官人等天下公民衆聞宣。高天原與利天降坐志天皇御世乎始而。中今爾至麻氐爾。天皇御世御世。天豆日嗣高御座爾坐而治賜慈賜來。食國天下之業止奈母。隨神所念行佐久止詔命乎衆聞宣。如是治賜慈賜來留天豆日嗣之業。今皇朕御世爾當而坐者。天地之心乎勞彌重彌辱彌恐彌坐爾。聞看食國中乃東方武藏國爾自然作成和銅出在止奏而獻焉。此物者天坐神地坐祇乃相于豆奈比奉福波倍奉事爾依

而顯久出多留寶爾在羅之止神隨所念行須。是以天地之神乃顯奉瑞寶爾依而。御世年號改賜換賜波久止詔命乎衆聞宣。故改慶雲五年而和銅元年爲而御世年號止定賜。是以天下爾慶命詔久。冠位上可賜人人治賜。大赦天下。自和銅元年正月十一日昧爽以前，大辟罪已下罪无輕重。已發覺未發覺。繫囚見徒。咸赦除之。其犯、八虐、故殺人、謀殺人、已殺、賊盜、常赦所不免者。不在赦限。亡命山澤。挾藏軍器。百日不首。復罪如初。高年，百姓。百歲以上賜籾三斛。九十以上二斛。八十以上一斛。孝子順孫。義夫節婦。表其

門閭。優復三年。鰥寡惸獨。不能自存者。賜籾一斛。賜百官人等祿。各有差。諸國之郡司。加位一階。其正六位上以上。不在進限。免武藏國今年庸當郡調。詔天皇命乎衆聞宣。

◉庸は公役の代償として奉る一定の布をいふ。
◉調は正丁一人よりその土地の産物に従ひて絹布麻布などを奉るをいふ。庸も調も各税なり。

◉聖武天皇御即位の時の詔

現神大八洲所知倭根子天皇大旨止勅大命乎。諸王諸臣百官人等天下公民衆聞食宣。高天原爾神留坐皇親神魯岐神魯美命吾孫將知食國天下止與佐斯奉志麻爾麻爾。高天原爾事波自米而。四方

● 大命爾坐は「大命に任せ」にて大命のまゝにの意。
● 此食國云々は元正天皇の詔なり。
● 掛畏岐は詞にかけて申すも畏れ多きを指す。
● 藤原宮云々は文武天皇なり。
● 美麻斯は汝なり。いましと同じ。
● 皇祖母云々天皇は元明天皇を指す。聖武天皇よりは祖母にあたり給へばなり。
● 授奉岐は文武天皇が御母元明天皇に御讓位ありしをいふ。
● 朕爾授賜は元明天皇が元正天皇に御讓位ありしをいふ。

食國天下乃政乎彌高彌廣爾天日嗣止高御座爾坐而。大八嶋國所知倭根子天皇乃大命爾坐詔久。此食國天下者。掛畏岐藤原宮爾天下所知美麻斯乃父止坐天皇乃美麻斯爾賜志天下之業止詔大命乎。聞食恐美受賜懼理坐事乎衆聞食宣。可久賜時爾美麻斯親王乃齡乃弱爾荷重波不堪止自加所念坐而。皇祖母坐志志掛畏岐我皇天皇爾授奉岐。依行而是平城大宮爾現御神止坐而大八島國所知而。靈龜元年爾此乃天日嗣高御座之業食國天下之政乎朕爾授賜讓賜而教賜詔賜都良久。掛畏淡海

● 淡海大津宮云々天皇は天智天皇なり常典は近江令なるべし。
● 我子は聖武天皇の御事にて元明天皇には御孫なれど親しみていひ給へる御詞なり。
● 牟倶佐加爾は賑かにの意。
● 大瑞は白龜のいでしをいふ。
● 御世名乎記而は年號の名を表しての意。

大津宮御宇倭根子天皇乃萬世爾不改常典止立賜敷賜留閉隨法。後遂者我子爾佐太加爾牟倶佐加爾無過事授賜止。負賜詔賜比爾志(依)氐。今授賜牟止所(念)坐間爾。去年九月天地貺大瑞物顯來理。又四方食國乃年實豐爾牟倶佐加爾得在止見賜而。隨神母所念行爾。于(都)斯久母皇朕賀御世當顯見留物爾者不在。今將嗣坐御世名乎記而應來顯來留物爾在良志止。所念坐而。今神龜二字御世乃年名止定氐改養老八年爲神龜元年而。天日嗣高御座食國天下之業乎。吾子美麻斯王爾授賜讓賜止詔天皇大

●穴奈比は助くるをいふ。

●賜波久は賜波久波の誤なりといふ。

命乎。頂受賜恐美持而。辭啓者天皇大命恐被賜仕奉者拙久劣而無所知。進母不知退母不知天地之心母勞久重。百官之情母辱愧美奈母。隨神所念坐故親王等始而王臣汝等清支明支正支直支心以皇朝乎穴(奈)比扶奉而。天下公民乎奏賜止詔命衆聞食宣。辭別詔久。遠皇祖御世始而中今爾至麻氐天日嗣止高御座(爾坐)而此食國天下乎撫賜慈賜波久時時狀狀爾從而治賜慈賜來業止隨神所念行須。是以宜天下乎慈賜治賜久。大赦天下。内外文武職事。及五位已上爲父後者。授勳一級。賜高年百歳以上穀

●大御手物は天皇の御手づから賜ふもの。

●由利はよりなり。

一石五斗。九十已上一石。八十已上幷惸獨不能自存者五斗。孝子順孫義夫節婦。咸表門閭。終身勿事。天下兵士。減今年調半。京畿悉免之。又官官仕奉韓人部一二人爾其負而可仕奉姓名賜。又百官官人及京下僧尼大御手物取賜治賜久止詔天皇御命衆聞食宣。

●聖武天皇立后の時の詔

天皇大命良麻止親王等又汝王臣等語賜幣止勅久。皇朕高御坐爾坐初由利今年爾至麻氐六年爾成奴。此乃

● 年緒長は年長くの意。

● 斯理幣能政は後宮の御政なり。

● 事立は奇異なることをいふにあらずとなり。

● 刀比止麻爾は苟且にもの意といふ。

● 夜氣は安氣の誤りにて上の意。

● 許貴太斯伎は數多なるの義。

間爾天都位爾嗣坐倍伎次止爲氐。皇太子侍豆。由是其婆婆止在須藤原夫人乎皇后止定賜。加久定賜者。皇朕御身毛年月積奴。天下君坐而年緒長久皇后不坐事母一豆乃善有良努行爾在。又於天下政置而獨知倍伎物不有。必母斯理幣能政有倍之。此者事立爾不有。天爾日月在如地爾山川有如並坐而可有止言事者。汝等王臣等明見所知在。然此位乎遲(定)米豆良久波。刀比止麻爾母已我夜氣授留人乎波一日二日止擇比。十日二十日止試定止斯伊波婆。許貴太斯伎意保伎天下乃事乎夜多夜須久行無止所念坐而。此乃

● 天下乃事乎夜云々は天下の大事を容易に行ふべきがはとてなり。

● 祖母天皇は元正天皇なり。

● 女云波婆等夜我加久云は女としてはすべて皆な同じとわがいふにあらずとなり。

● 波波刀比は詳ならず井ヤマヒといふべきところか。

● 宇武何志伎事はうれしき事なり。

六年乃内乎擇賜試賜(而)。今日今時眼當衆乎喚賜而。細事乃狀(語賜布)止詔勅聞宣。賀久詔者挂畏支於此宮坐氐現神大八州國所知倭根子天皇我王祖母天皇乃。始斯皇后乎朕賜日爾勅豆久。良女止云波婆等美夜我加久云。其父侍大臣乃皇我朝乎助奉輔奉氐頂伎恐美供奉乍。夜半曉時止休息無久淨伎明心乎持氐。波波刀比供奉乎所見賜者。其人乃宇武何志伎事歟事乎送不得忘。我兒我王過無罪無有者捨麻須奈。忘麻須奈止。負賜宣賜志大命依而。加爾加久爾年乃六年乎試賜使賜氐。此皇后位乎授賜。然毛

◎然毛は皇族の女にあらずして臣下の女を皇后とし給ふことをいふ。

朕時乃末不有。難波高(津)宮御宇大鷦鷯天皇葛城曾豆比古女子伊波乃比賣命皇后止御相坐而。食國天下之政治賜行賜家利。今米豆良可爾新伎政者不有。本由理行來迹事止曾詔勅聞宣。

◎陸奥國より黄金を献りし時の詔

現神御宇倭根子天皇詔旨宣大命親王諸王諸臣百官人等天下公民衆聞食宣。高天原爾天降坐之天皇御世乎始天。中今爾至麻氐天皇御世御世天日嗣高御座爾坐氐治賜比惠賜來流食國天下乃業止奈母神奈我良母所念行久止宣大命衆聞食宣。加久治賜比惠賜來流天日嗣乃業止。今皇朕御世爾當氐坐者。天地乃心遠勞彌重彌辱美恐美坐爾。聞食食國乃東方陸奥國乃小田郡爾金出在止奏氐進禮利。此遠所念波。種種法中爾波。佛(大)御言之國家護我多仁波勝在止聞召。食國天下乃諸國爾最勝王經乎坐盧舍那佛化奉止爲氐天坐神地坐祇乎祈禱奉。挂畏遠我皇天皇御世治氐拜仕奉利衆人乎伊謝奈比率氐仕奉心波。禍息氐善成。危變氐全平牟等念氐仕奉間爾。衆人波不成登疑。朕波金少牟止念憂

◎國家護我多仁波は國家を守る爲めにはなり。◎最勝王經は金光最勝王經にて國を護ることを旨と說きたるものなり。◎率は牽きなり。

●多豆何奈伎はたよりなきの意。

都都在爾。三寶乃勝神枳大御言驗乎蒙利。天坐神地坐神乃相宇豆奈比奉佐枳波倍奉利。又天皇御靈乃多知惠賜比撫賜夫事依氐。顯自示給夫物在等自念召波。受賜利歡受賜利貴進母不知退母不知。夜日畏恐麻利念召波。天下遠撫惠備賜事理爾坐君乃御代爾當氐可在物乎。拙久多豆何奈伎朕時爾顯自示給禮波。辱美愧美奈母念須。是以朕一人夜波貴大瑞乎受賜牟。天下共頂受賜利歡流自理可在等。神奈我良母念坐氐奈母。衆乎惠賜比治賜比。御代年號爾字加賜久止宣天皇大命衆聞食宣。辭別氐宣久。大神宮乎始氐諸

●御戶代は御年代にて、稻を作る料の田をいふ。

●侍所はその墓所をいふ。

●大御名は天皇ふ御名にて、即ち天下を治め給ふの御業なり。

●婆婆大御祖は文武天皇の皇后藤原宮子をいふ。

●御名乎蒙氐は御陰を蒙りての意

神爾多知御戶代奉利。諸祝部治賜夫。又寺寺爾墾田地許奉利。僧綱乎始氐衆僧尼敬問比治賜比。新造寺乃(官)寺止可成波官寺止成賜夫。大御陵守仕奉人等一二治賜夫。又御世御世爾當天天下奏賜比國家護仕奉流事乃勝在臣乃多知侍所爾波置表氐。與天地共人爾不令侮不令穢治賜部止宣大命衆聞食宣。又天日嗣高御座乃業止坐事波。進氐波挂畏天皇大御名乎受賜利。退氐波婆婆大御祖乃御名乎蒙氐之。食國天下乎婆撫賜惠賜夫止奈母神奈我良母念坐須。是以。王多知大臣乃子等治賜伊自。天皇朝爾仕奉利婆婆

●伊自は共に助辭にて意を強むるもの。
●奈良宮云々天皇は元正天皇なり。
●御世重氐は天智天皇より元正天皇までをいふ。
●祖父大臣は不比等をいふ。

爾仕奉爾波可在。加以。挂畏近江大津宮大八島國所知之天皇大命止之氐。奈良宮大八州國所知自我皇天皇止御世重氐朕宣自久。大臣乃御世重天明淨心以氐任奉事爾依氐奈母。天日嗣波平安久聞召來流。此辭忘給奈弃給奈止宣比之大命乎受賜利恐麻利。汝多知乎惠賜比治賜久止。宣大命衆聞食宣。又三國眞人石川朝臣鴨朝臣伊勢大鹿首部波可治賜人止自氐奈母簡賜比治賜夫。又縣犬養橘夫人乃天皇御世重氐明淨心以氐仕奉利。皇朕御世當氐毛無怠緩事久助仕奉利。加以。祖父大臣乃。殿門荒穢須事无久守川川在

●伊婆禮奴物云々は女子は父の名を負ふべきものにあらずとして棄つべきにあらずとなり。
●加久斯麻爾はかくさまになり。
●顧奈伎人は君の爲めには生命を顧みぬ人をいふ。
●美豆久屍は屍を水に漬すをいふ。
●草牟須屍は屍の上に草の生るをいふ。
●能杼爾波不死は徒らには死なじ、なり。

自之事伊蘇之美宇牟賀斯美忘不給止自氐奈母。孫等一二治賜夫。又爲大臣氐仕奉部留臣多知乃子等男波。隨仕奉狀氐種種治賜比等川母。禮女不治賜。是以所念波。男能末父名負氐女波伊婆禮奴物爾阿禮夜。立雙仕奉自理在止奈母念須。父我加久斯麻爾在止念氐於母夫氣教部牟事不過不失。家門不荒自氐。天皇朝爾仕奉止自氐奈母。汝多知乎治賜夫。又大伴佐伯宿禰波。常母云(如)久。天皇朝守仕奉事顧奈伎人等爾阿禮波。汝多知乃祖止母乃云來久。海行波美豆久屍。山行波草牟須屍。王乃幣爾曾去死米。能杼爾波不死止。云來流人等止奈母聞召

●心中古止波奈母は心中豆奈母の誤かといふ。
●遣は使ひ給ふ意。
●力田は田のことに勤功あるものをいふ。
●王生の王は書生の草體より誤まりしものにて、學生のことをいふ。
●知物人は大學寮の諸博士をいふ。

須。是以。遠天皇御世始氏。今朕御世爾當氏母。内兵止心中古止波奈母遣須。故是以子波祖乃心成伊自子爾波可在。此心不失自氏明淨心以氏仕奉止自氏奈母。男女幷氏一二治賜夫。又五位已上子等治賜夫。六位已下爾冠一階上給比。東大寺(造)人等二階加賜比。正六位上爾波子一人治賜夫。又五位已上及皇親年十三已上无位大舍人等至于諸司仕丁麻氏爾大御手物賜夫。又高年人等治賜比。困乏人惠賜比。孝義有人其事免賜比。力田治賜夫。罪人赦賜夫。又王生治賜比。知物人等治賜夫。又見出金人及陸奧國國司郡司

●朕御祖は光明皇后なり。
●岡宮御宇天皇は天武天皇の皇太子草壁皇子なり。
●欲令嗣止宣氏は聖武天皇の詔し給ひしなり。
●斗卑等は謀反せるものを賤しめいひし詞。

百姓至麻氏爾治賜比。天下乃百姓衆乎撫賜比惠賜久止宣天皇大命衆聞食宣。

◉孝謙上皇法華寺におはしましける時の詔

太上天皇御命以氏卿等諸語部止宣久。朕御祖大皇后乃御命以氏朕爾告之久。岡宮御宇天皇乃。日繼波加久氏絶奈牟止爲。女子能繼爾波在止母欲令嗣止宣氏。此政行給岐。加久爲氏。今帝止立氏須麻比久流間爾。宇夜宇夜自久相從事波無之氏。斗卑等乃仇能在言

◉別宮云々は淳仁帝と別宮におはさば孝謙上皇をあなどり給ふことなかるべしと自からの給ふなり。

期等久。不言岐辭母言奴。不爲伎行母爲奴。凡加久伊波流倍枳朕爾波不在。別宮爾御坐坐牟時。自加得言也。此波朕劣爾依氐之加久言良止自念召波。愧自彌伊等保自彌奈母念須。又一爾波朕應發菩提心緣爾在良之止奈母念須。是以。出家氐佛弟子止成奴。但政事波常禮利小事波今帝行給部。國家大事賞罰二柄波朕行牟。加久能狀聞食悟止宣御命衆聞食宣。

◉孝謙上皇の討賊將軍藤原藏下麻呂等に賜ひし詔

◉鈴は驛鈴なり。

◉印は押手なり。昔は印といふものなかりければ、みな手掌を押して信とせしを、やがて印の訓としたるなり。

◉鹽燒道祖兩王は共に天武天皇の皇孫にして、新田部親王の御子なり。

◉三關は伊勢の鈴鹿、美濃の不破、越前の愛發、なり。

◉之我はそれがなり。

逆仁穢岐奴仲末呂伊。詐奸流心乎以天。兵乎發朝庭乎傾動武止之天。鈴印乎奪。復皇位乎掠天。先仁捨岐良比賜天之道祖我兄鹽燒乎皇位仁方定止云天。官印乎押天。天下乃諸國仁書乎散天告知之米。復云久。今乃勅乎承用與。先仁詐天勅止稱天在事乎承用流己止不得止云天。諸人乃心乎惑亂。三關仁使乎遣天竊仁關乎閉。一二乃國仁軍丁乎乞兵發之武。此乎見流仁。仲末呂可心乃逆仁惡狀方知奴。然。先仁之我奏之事方毎事仁奸美諂天在家利。此乎念方。唯己獨乃未朝庭乃勢力乎得天。賞罰事乎一仁己可欲末仁行止

●禪師は道鏡なり。
●先祖乃大臣は物部守屋の大連なるべし。道鏡は弓削氏にて守屋の後なればなり。

念天。兄豐成朝臣乎詐天譏治奏賜流爾依天位乎退多末比天。是乃年乃年己呂在都。然今方明仁仲末呂可詐仁在家利止知天。本乃大臣乃位仁仕奉之武流事乎。諸聞食止宣。復勅久。惡久姧岐奴乃政乃柄乎執天奏多末不事乎以天。諸氏氏人等乎毛進都可方須止己理乃如毛不在阿利都。是以天。今與利後方。仕奉良武相乃末仁末仁進用賜武。然。之我奏之久。此禪師乃晝夜朝庭乎護仕奉乎見流仁。先祖乃大臣止之天仕奉之位名乎繼止念天在人奈利止云天。退賜止奏之可止毛。此禪師乃行乎見爾。至天淨久佛乃御法乎繼隆武止念行末之。朕乎毛導

護末須。已師乎夜多夜須久退末都良武止念天在都。然。朕方髮乎曾利天佛乃御袈裟乎服天在止毛國家乃政乎不行阿流己止不得。佛毛經仁勅久。國王伊王位仁坐時方。菩薩乃淨戒乎受與止勅天在。此仁依天念倍方。出家天毛政乎行仁豈障倍岐物仁方不在。故是以天。帝乃出家之天伊末須世仁方。出家之天在大臣毛在倍之止念天樂末須位仁方阿良禰止毛。此道鏡禪師乎大臣禪師止位方授末都流事乎。諸聞食止宣。復勅久。天下乃人誰曾君乃臣仁不在安良武。心淨久之天仕奉良武〔此〕之實能朕臣仁方在武。夫人止之天己我先祖乃名乎興繼比呂米武止不

◉猶良比能豐明は大嘗會後の宴會をいふ。

念方阿流不在。是以天。明久淨岐心以天仕奉乎方。氏氏門方絕方多末須治賜止勅御命乎。諸聞食止勅。又宣仕奉狀爾隨天冠位阿氣賜治賜久止宣。

◉稱德天皇大嘗會の時に宣らせ給ひし詔

今勅久。今日方大新嘗乃猶良比能豐明聞行日仁在。然此遍能常與利別仁在故方。朕方佛能御弟子等之天菩薩能戒乎受賜天在。此仁依天上都方波三寶仁供奉。次仁方天社國社乃神等乎毛爲夜備末都利。次仁方供奉留親王多知臣多知百官能人等天下能人民諸乎愍賜慈賜牟等念天奈毛還天復天下乎治賜。故汝等毛安久於多比仁侍天。由紀須伎二國乃獻禮留黑紀白紀能御酒乎赤丹乃保仁多末倍惠良伎。常毛賜酒幣乃物乎賜利方以天退止爲天奈毛御物賜方久止宣。復勅久。神等乎方三寶余利離天不觸物曾止奈毛人能念天在。然毛經乎見末都禮方佛能御法乎護末都利尊末都流方諸乃神多知仁伊末志家利。故是以。出家人毛白衣毛相雜天供奉仁豈障事方不在止念天毛奈本忌之可如久方不忌之天此乃大嘗方聞行止宣御命乎諸聞食止宣。

◉還而は再び御位に復りてなり。
◉多末倍は食べなり。
◉惠良伎は歡喜するをいふ。
◉酒幣は酒宴の時贈るものなり。
◉白衣は墨染衣に對して常人の衣をいふ。

●面幣利は顔ぶりなり。

◉和氣清麻呂等を流し給ひし時の詔

天皇良我御命良麻止詔久。夫臣下等云物波君仁隨天淨久貞仁明心乎以天君乎助護（奉）。對天方無禮岐面幣利無久後波仁謗言無久。姧僞利諂曲流心無之天。奉侍倍岐物仁在。然物乎。從五位下因幡國員外介輔治能眞人清麻呂其我姉法均止甚大爾惡久姧流妄語乎作氐。朕仁對天法均伊物奏利。此乎見流仁。面乃色形口爾云言猶明爾己何作天云言乎。大神乃御命止借天言止所知奴。問求仁。朕所念之天在何如久。大

欠

MISSING

●休息安麻利氏は病の平癒なしてり。

●於與豆禮は妖言なり。

止所念天奈毛。諸爾是事乎教給布止詔布御命乎衆諸聞食止宣。復詔久。此賜布帯乎多麻波利豆。汝等乃心乎等等能倍直之。朕我教事爾不違之天束禰治牟表止毛奈此帯乎賜久止詔布御命乎衆諸聞食止宣。

◉光仁天皇藤原永手を弔ひ給ひし詔

藤原左大臣爾詔大命乎宣。大命坐詔久。大臣明日者參出來仕牟止待比賜間爾。休息安麻利氏參出末須事波無之帝。天皇朝乎置而罷退止聞看而於母富佐久於與豆禮加母多波許止乎母加云。信爾之有者。仕奉之大政

●阿加良閇は明らめなり。

官之政乎波誰任之加母罷伊麻須。孰授加母罷伊麻須。恨加母悲加母。朕大臣。誰爾加母我語比佐氣牟。孰爾加母我問比佐氣牟止。悔彌惜彌痛彌酸彌大御泣哭之坐止詔大命乎宣。〔加〕悔加母惜加母。自今日者大臣之奏之政者不聞看夜成牟。自明日者大臣之仕奉儀者不看行夜成牟。日月累往麻爾麻爾悲事乃未之彌可起加母。歳時積往麻爾麻爾佐夫之岐事乃未之彌可益加母。朕大臣。春秋麗色乎波誰俱止加母見行弄賜牟。山川淨所者孰俱加母見行阿加良閇賜牟止。歎賜比憂賜比大坐坐止詔大命乎宣。美麻之大臣乃萬政總以無怠緩事無曲傾事久。王臣等乎母彼此別心無普平奏比。公民之上乎母廣厚慈而奏事此耳不在。天皇朝乎暫之間母罷出而休息安母布事無。食國之政乃平善可在狀。天下公民之息安麻流倍伎事乎。且夕夜日不云。思議奏比仕奉者。欵美明美意太比之美多能母志美思保之川川大坐坐間爾。忽朕朝乎離而罷麻之奴禮婆言牟須部母無爲牟須部母不知爾。悔備賜比和備賜比大坐坐止詔大命乎宣。又事別詔久。仕奉志事廣美厚美。彌麻之大臣之家內子等乎母波布理不賜失不賜。慈賜波牟。起賜波牟。溫賜波牟。人目賜波牟。美麻之大臣乃罷道母宇之呂輕

10-291

久。心母、意太比爾、念而、平久、幸久、罷止富良須、倍之止

詔大命乎宣。

風土記

◎出雲風土記國引の條

所以號意宇者。國引坐八束水臣津野命詔。八雲立出雲國者。狹布之稚國在哉。初國小所作。故將作縫詔而。栲衾志羅紀乃三崎矣。國之餘〔國〕有耶見者。國之餘有詔而。童女胷鉏所取而。大魚之支太衝別而。波多須々支穗振別而。三自之綱打挂而。霜黑葛聞々耶々爾。河船之毛々曾々呂々爾。國々來々。引來縫國者。自玄豆乃打絕而。八穗米支豆支乃御崎也。

①意宇は郡名。
②八束云々命は大國主命なり。
③狹布之稚國は狹き織物の如く稚く小なる國。
④初國は國土生成の時をいふ。
⑤栲衾は栲布にて作れる衾にて、新羅の國にかゝる枕詞。
⑥童女胷鉏は古しへ童女の胸の廣きが稱せられし故にこゝもその美稱の意にて廣く平なる鉏をいふ。

大魚之支太は鮪鯨の如く大なる魚頰を捕ふるには腮につくるものなる故「つく」といふにかけて衝の枕詞とす。

波多須々支は幡薄にて、穗にかゝる枕詞。

衝別、穗振別は新羅の三崎を衝き取り離り取りたるをいふ。

霜黑葛は霜にあひて黑くなりたる葛なり。之ハ「へなくへな」になるもの故「へなく」にかけていふなり。

聞々耶々は聞々那々の誤りなるべし。へなへなとは海上を漂ひて「へなりへなり」とて土地の來るをいふとぞ。

打絕は土地の端なり。

八穗米は八百土にて杵築の枕

此而堅立加志者。石見國與出雲國之堺有名佐比賣山是也。亦持引綱者、薗之長濱是也」亦北門佐伎之國矣。國之餘有耶見者。國之餘有詔而。童女胷鉏所取而。大魚之支太衝別而。波多須々支穗振別而。三自之綱打挂而。霜黑葛聞々耶々爾。河船之毛々曾々呂々爾。國々來々引來縫國者。自多久乃打絕而。狹田之國是也」亦北門良波乃國矣。國之餘有耶見者。國之餘有詔而。童女胷鉏所取而。大魚之支太衝別而。波多須々支穗振別而。三自之綱打挂而。霜黑葛聞々耶々爾。河船之毛々曾々呂々爾。國々來々引來縫國者。自手〔波〕縫之打絕而。闇見之國是也」亦高志之都々乃三崎矣。國之餘有耶見者。國之餘有詔而。童女胷鉏所取而。大魚之支太衝別而。波多須々支穗振別而。三自之綱打挂而。霜黑葛聞々耶々爾。河船之毛々曾々呂々爾。國々來々引來縫國者。三穗之崎也」持引綱者。夜見島是也。固堅立加志者。有伯耆國大神岳是也」今者國引訖詔而。意宇杜爾御杖衝立而。意惠登詔。故云意宇。

詞。

意惠は勞れて息ふ時の聲なり。

◎丹後風土記奈具社の條

丹後國丹波郡郡家西北隅方有比治里。此里比治山頂有井。其名云眞井。今既成沼。此井天女八人降來浴水。于時有老夫婦。其名曰和奈佐老夫。和奈佐老婦。此老等至此井。而竊取藏天女一人衣裳。即有衣裳者皆天飛上。但無衣裳女娘一人留。即身隱水而獨懷愧居。爰老夫謂天女曰。吾請天女娘汝爲兒。天女答曰。妾獨留人間。何敢不從。請許衣裳。老夫曰。天女娘何存欺心。天女云。凡天人之志。以信爲本。何多疑心不許衣裳。老夫答曰。多疑無信。率土之常。故以此心爲不許耳。遂許。即相副而往宅。即相住十餘

歲。爰天女善爲釀酒。飮一盃吉萬病悉除之。其一杯之直財積車送之。于時其家豐土地形富。故云土形里。此自中間至于今時便云比沼里。後老夫婦等謂天女曰。汝非吾兒。暫借住耳。宜早出去。於是天女仰天哭慟。俯地哀吟。即謂老夫等曰。妾非以私意來。老夫等所願。何發厭惡之心。忽存出去之痛。老夫增發瞋願去。天女流涙。微退門外。謂鄕人曰。久沈人間。不得還天。復無親故。不知由所居。吾何哉何哉。拭涙嗟歎。仰天歌曰。阿麻能波良。布理佐兼美禮婆。加須美多智。伊弊治麻土比天。由久弊志良受母。遂退去而

丹後國丹波郡郡家西北隅方有比治里。此里比治山頂有井。其名云眞井。今既成沼。此井天女八人降來浴水。于時有老夫婦。其名曰和奈佐老夫。和奈佐老婦。此老等至此井。而竊取藏天女一人衣裳。即有衣裳者皆天飛上。但無衣裳女娘一人留。即身隱水而獨懷愧居。爰老夫謂天女曰。吾請天女娘汝爲兒。天女答曰。妾獨留人間。何敢不從。請許衣裳。老夫曰。天女娘何存欺心。天女云。凡天人之志。以信爲本。何多疑心。不許衣裳。老夫答曰。多疑無信。率土之常。故以此心爲不許耳。遂許。即相副而往宅。即相住十餘

歲。爰天女善爲釀酒。飲一盃。吉萬病悉除之。其一杯之直財積車送之。于時其家豐。土地形富。故云土形里。此自中間至于今時便云比治里。後老夫婦等謂天女曰。汝非吾兒。暫借住耳。宜早出去。於是天女仰天哭慟。俯地哀吟。即謂老夫等曰。妾非以私意來。老夫等所願。何發厭惡之心。忽存出去之痛。老夫增發瞋願去。天女流淚。微退門外。謂鄉人曰。久沈人間。不得還天。復無親故。不知由所居。吾何哉何哉。拭淚嗟嘆。仰天歌曰。阿麻能波良。布理佐兼美禮婆。加須美多智。伊弊治麻土比天。由久弊志良受母。遂退去而

至荒鹽村。即謂村人等云。畏老夫老婦之意。我心無異荒鹽者。仍云比沼里荒鹽村。亦至丹波里哭木村。據槻木而哭。故云哭木村。復至竹野郡船木里奈具村。即謂村人等云。此處我心成奈具志久。古事平善者云奈具志。乃留居此村。斯所謂竹野郡奈具社坐豐宇賀能賣命也。

氏文

高橋氏文の一節

掛畏卷向日代宮御宇大足彥忍代別天皇。五十三年癸亥八月。詔群卿曰。朕顧愛子。何日止乎。欲巡狩小碓王又名倭武王。所平之國。是月行幸於伊勢。轉入東國。冬十月。到于上總國。安房浮島宮。爾時磐鹿六獦命從駕仕奉矣。天皇行幸於葛飾野。令御獦矣。大后八坂媛波借宮爾御座。磐鹿六獦命亦留侍。此時。大后詔。磐鹿六獦命。此浦聞異鳥之音。其鳴駕我久久。

㊆日代宮云々天皇は景行天皇なり。

角弭は弭に角をはめたるものなり。弭は弓の兩端の弦を受くる處。

欲見其形。即磐鹿六獦命。乘船到于鳥許。鳥驚飛於他浦。猶雖追行。遂不得捕。於是。磐鹿六獦命詛曰。汝鳥。戀其音。欲見貌。飛遷他浦。不見其形。自今以後。不得登陸。若大地下居必死。以海中爲住處。還時顧艫魚多追來。即磐鹿六獦命。以角弭之弓當遊魚之中。着弭而出忽獲數隻。仍名曰頑魚。此今諺曰堅魚。以今角作鉤柄釣堅魚此之由也。船遇潮涸天渚上爾居奴。掘出止爲止得八尺白蛤一貝。磐鹿六獦命。捧件二種之物。獻於大后。即大后譽給比悅給弖詔久。甚味淸造欲供御食。爾時磐鹿六獦命申久。六獦令料理天將供奉止白

高次八枚は膳などの類八個なり。
眞木は檜なり。
枚次は皿などの類。
蒲は蒲なり。

天。遣喚無邪志國造上祖大多毛比。知々夫國造上祖天上腹天下腹人等。爲膾及煮燒雜造盛天。見河曲山梔葉天。高次八枚爾刺作利。見眞木葉天。枚次八枚爾刺作天。取日影天爲縵。以蒲葉天。美頭良乎卷。採麻佐氣葛天。多須岐仁加氣。爲帶足纏乎結天。供御雜物乎結餝天。乘輿從御獦還御入坐時爾爲供奉。時勅久。誰造所進物問給。爾時大后奏。此者磐鹿六獦命所獻之物也。即歡給比譽賜天勅久。此者磐鹿六獦命獨我(心)(耳)波非矣。斯天坐神乃行賜倍留物也。大倭國者。以行事負名國奈利。磐鹿六獦命波朕我

大伴立雙天云々は膳夫の職業は多くの伴を率ゐて仕へ奉るべきものなりとなり。
日竪云々背面は東西南北のことなり。
割徙は諸國の人々を選びて膳夫として命に附け給ふなり。
枕子は床中に枕を置きて寢れ居るほどの赤子をいふ。これを命に賜ひて後に膳夫とするなり。
加弊良は檞のことなり。

王子等爾。阿禮子孫乃八十連屬爾遠久長久天皇我天津御食乎齋忌取持天仕奉止負賜天。則若湯坐連等始祖。物部意富賣布連乃佩大刀乎令脫置天副賜支。又此行事者。大伴立雙天應仕奉物止在止勅天。日竪日横。陰面背面乃諸國人乎割移天。大伴部止號天賜磐鹿六獦命。又諸氏人。東方諸國造十二氏乃枕子。各一人令進天。平次比例給天依賜。山野海河者。多爾久久乃佐和多流美。岐波加弊良乃加用布美。岐波波多乃廣物。波多乃狹物毛乃荒物毛乃和物供御雜物等兼攝取持天仕奉止依賜。如是依賜事波。朕我獨心耳非矣。是天坐神乃命叙。朕我王子磐鹿六獦命。諸友諸人等乎催率天愼勤仕奉止仰賜誓賜天依賜支。是時。上總國安房大神乎御食都神止坐奉天。爲若湯坐連等始祖意富賣布連之子。豐日連乎令火鑽天。此乎忌火止爲天。伊波比由麻閇天。供御食。並大八洲爾像天。八乎止古八乎止咩定天。神嘗大嘗等仁仕奉始支。但云安房大神爲御食津神者。今大膳職祭神也。今令鑽忌火大伴造者。物部豐日連之後也。以同年十二月。乘輿從東還坐於伊勢國綺宮。五十四年甲子九月。自伊勢還幸於倭纏向宮。五十七年丁卯十一月。武藏國知々夫大伴部

○今朝廷歳次壬戌は桓武天皇延暦元年なり。

上祖。三宅連意由。以木綿代蒲葉天美頭良乎巻寸。従此以來。用木綿副日影等葛天為用矣。自纒向朝廷歳次癸亥。始奉貴詔勅。所賜膳臣姓。天都御食乎伊波比由麻波理天仕奉來。迄于今朝庭歳次壬戌。并卅九代積年六百六十九年。延暦十一年。

奈良時代文範上巻 終

明治三十九年九月十八日印刷
明治三十九年九月廿一日發行

不許複製

奈良時代文範上巻奥附
定價金參拾錢

著作者　岡田正美
　　　　千秋季隆

發行兼印刷者　東京市京橋區銀座壹丁目廿二番地
大日本圖書株式會社
右代表者　專務取締役　宮川保全

發賣所
東京市京橋區銀座壹丁目廿二番地
大日本圖書株式會社
大坂市東區北久太郎町四丁目十七番屋敷
大日本圖書株式會社支社
各府縣下特約販賣所

大日本圖書株式會社出版圖書特約販賣所

【北海道】村上商店。川南。鮮文舍。一二堂。富貴堂。【東京府】地球堂。森江。森江分店。寶文館。杉本。文林堂。水野。東京堂。林平。丸善。青野。中西屋。杉村。有隣堂。中央堂。松邑。大倉。金剌。北隆館。三友。播磨屋。内田。東海堂。文會堂。池田。巨明堂。二松堂。嵩山房。山岸。【神奈川縣】弘集堂。田沼。丸屋。正心堂。【新潟縣】高桑。高橋。硯張。野島。西村。中山。萬松堂支店。北光社。目黒。山本。柿村。越佐同盟書館。【埼玉縣】水野。いろは堂。尙古堂。【群馬縣】煥乎堂。淨觀堂。木田。【千葉縣】多田屋。【茨城縣】伊沼。明文堂。川又。大塚屋。寺田。南龍堂。高木。宮田。【栃木縣】内山。永樂屋。平石。青木。【愛知縣】川瀨。永東。【靜岡縣】吉見。谷嶋屋。古澤。三原屋。大石。【山梨縣】柳正堂。【岐阜縣】郁文堂。郁文堂支店。佐。【長野縣】日新堂。水琴堂。小林。朝陽館。西澤。西澤支店。盛文堂。丸山。【宮城縣】藤崎。松榮堂。【福島縣】虎屋。陽文堂。上野屋。【岩手縣】文港堂。佐藤。近藤。文明堂。【青森縣】青藍堂。今泉。今泉支店。伊吉。【山形縣】盛文堂。日向。牧野。相原。八文字屋。【秋田縣】曙堂。東海林。藤嶋。大澤。【富山縣】中田。學海堂。【京都府】杉林。文港堂。松田。南波。【大阪府】中村。岡島。金川。中川。柳原。小谷。松村。開成館。寶文館。前川。丸善。田中。三宅。石田。北村。本田。中井。竹内。【兵庫縣】熊谷。石田。福浦。竹内。木村。藥師寺。西村。中井。【長崎縣】虎與號。集英堂。【三重縣】安屋。【奈良縣】文港堂。文進堂支店。猷修館。【滋賀縣】廣田。澤。【福井縣】品川。中村。【石川縣】宇都宮。近田。【鳥取縣】德岡。今井。久松堂。安達。【島根縣】大盧。川岡。板倉。【岡山縣】武内。【廣島縣】積善館。芸香堂。原田。【山口縣】含英堂。梅龍堂。日新堂。超世館。【和歌山縣】平安堂。【德島縣】靜壽堂。【香川縣】開益堂。開文舍。盛友堂。【愛媛縣】向井。土居。足立。【高知縣】富士越。【福岡縣】元野木。積善館。博文社。金文堂。【大分縣】甲斐。野依。梅津。中園。佐野。【佐賀縣】牧川。汲古堂【熊本縣】長崎。【宮崎縣】修進堂。谷。【鹿兒島縣】吉田。金光堂。【沖繩縣】嘉見城。小澤。【臺灣】新高堂。

明治三十九年六月調

33
540

076941-000-2

33-540

奈良時代文範 上巻

岡田 正美
千秋 季隆／編

M39. 9

DAC-0109